資料２

平成２９年度
北海道博物館事業実績報告書

（事業実績に関する内部評価）

平成３０年３月

北　海　道　博　物　館

目　　次

はじめに 1
事業実績に関する評価にあたっての基本的な考え方 2
Ⅰ．北海道博物館の概要 3
（1）設置目的 3
（2）事業内容 3
（3）組織 3
（4）沿革 4
（5）職員状況 4
（6）北海道博物館基本的運営方針 4
（7）中期目標・計画 6
（8）アイヌ民族文化研究センター事業推進方針 6

Ⅱ．総括評価 7

（1）博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置 9
（2）道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置 9
（3）利用者の視点に立った博物館づくりへの措置 10
（4）道民との連携、協働する博物館づくりへの措置 11
（5）北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置 12
（6）道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置 13
（7）研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置 14
（8）アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置 15
（9）各々の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置 16

Ⅲ．項目別評価　ー第１期中期目標・計画ー
ーアイヌ民族文化研究センター事業推進方針ー 17

は じ め に

本報告書は、北海道博物館の平成２９年度事業実績に関する内部評価報告書である。

ここで言う「北海道博物館」とは、北海道立総合博物館条例の第３条で規定する三つの施設、（１）北海道博物館（以下「博物館」という。）、（２）北海道開拓の村（以下「開拓の村」という。）、（３）野幌森林公園自然ふれあい交流館（以下「ふれあい交流館」という。）のうち、（１）のことを指す。

平成２９年度に博物館が実施した事業実績に関する内部評価は、博物館が策定した「北海道博物館基本的運営方針」に基づく「中期目標・計画」及び「年度計画」を対象とし、平成２９年４月から平成３０年１月末までの実績で実施した。平成３０年２月中旬に項目別評価を行ない、平成３０年２月２７日（火）に内部評価委員会を開催し、総括評価を実施した。

なお、博物館の施設及び設備の維持管理、「開拓の村」及び「ふれあい交流館」の管理運営については、指定管理者制度が導入されており、指定管理者に対する評価は、知事が定める管理の目標に対する達成度を毎年度、把握、公表することで行っているため、北海道博物館が行う内部評価の対象外とした。

北海道博物館内部評価委員会　委員名簿

委員長	石森　秀三	北海道博物館　館長
副委員長	梅木　克也	北海道博物館　副館長
副委員長	中村　　亘	北海道博物館　アイヌ民族文化担当副館長
副委員長	小川　正人	北海道博物館　学芸副館長 兼アイヌ民族文化研究センター長 兼研究部長
委員	川田　宣人	北海道博物館　総務部長
委員	舟山　直治	北海道博物館　学芸部長
委員	右代　啓視	北海道博物館　総務部企画グループ学芸主幹
委員	堀　　繁久	北海道博物館　学芸部博物館基盤グループ学芸主幹
委員	池田　貴夫	北海道博物館　学芸部道民サービスグループ学芸主幹
委員	水島　未記	北海道博物館　学芸部社会貢献グループ学芸主幹
委員	甲地　利恵	北海道博物館　アイヌ文化研究グループ研究主幹
委員	林　　淳一	北海道環境生活部文化・スポーツ局　文化振興課主査
委員	（欠席）	北海道環境生活部　アイヌ政策推進室主幹

事務局	北海道博物館　総務部企画グループ

事業実績に関する内部評価にあたっての基本的な考え方

博物館は、「基本計画」の第２章６項（４）「博物館運営の評価」の趣旨に基づき、平成２９年度の事業実績に関する内部評価を実施した。

なお、博物館は博物館法で定める「登録博物館」、「公立博物館」に該当する施設ではないが、内部評価を実施するに当たっては、「博物館法」第９条ならびに「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」（文部科学省告示第１６５号）の第４条１項の規程を参考にして実施した。

博物館が具体的に内部評価を行うに当たっては、当館が策定した「北海道博物館内部評価実施要領」により次のように実施した。

○目　的

・博物館が策定した基本的運営方針の達成状況等を自ら点検し、改善を図ること。
・評価を通じて、博物館の課題・成果を館外で共有してアカウンタビリティ（責任説明）を明確にして、博物館の運営状況をわかりやすく道民に示すこと。

○評価の実施

博物館は、第１期中期目標・計画期間（平成２７年度～平成３１年度）における平成２９年度（平成２９年４月から平成３０年１月末まで）の事業実績に関して、次の内部評価を行った。

ア．項目別評価

各グループが実施した事業に関する点検作業の結果に基づいて、年度計画の項目ごとに、各グループのグループリーダー（主幹、学芸主幹、研究主幹）が年度事業の実績ならびに達成状況や課題を記述するとともに、評価基準により評価を行った。

イ．総括評価

項目別評価の結果に基づいて、博物館が設置した「北海道博物館内部評価委員会」において、全体及び特記事項について記述式により評価を行った。

○項目別評価・総括評価の基準

<table>
<tr><th rowspan="2">評価基準</th><th colspan="2">判断の目安</th></tr>
<tr><th>取組の項目に関する事項
（右欄の項目以外の項目）</th><th>数値目標の項目に
関する事項</th></tr>
<tr><td>S 上回って実施している</td><td>取組の結果、所期の成果等を上回ったとき</td><td rowspan="2">達成度が９０％以上
（S、A の評価は取組状況を勘案の上、判断する。）</td></tr>
<tr><td>A 十分に実施している</td><td>取組の結果、所期の成果等を得たとき</td></tr>
<tr><td>B 十分に実施していない</td><td>取り組んではいるが、所期の成果等を得られなかったとき</td><td rowspan="2">達成度が９０％未満
（B、C の評価は取組状況を勘案の上、判断する。）</td></tr>
<tr><td>C 実施していない</td><td>取組が行われていないとき</td></tr>
</table>

Ⅰ．北海道博物館の概要

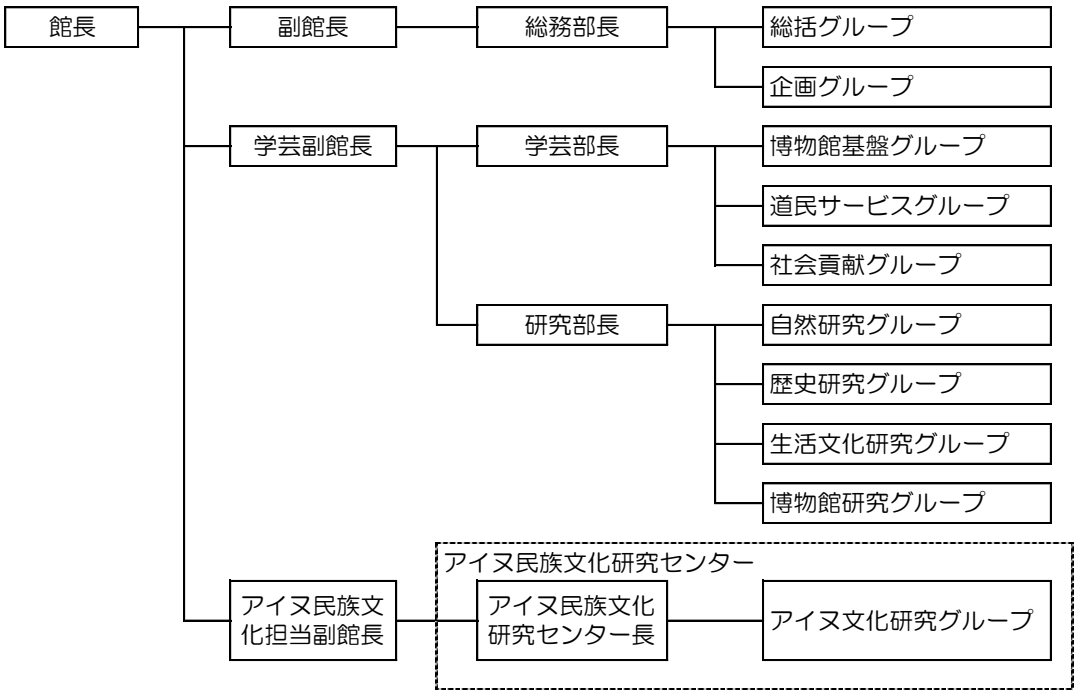
（１）設置目的

北海道の自然・歴史・文化等に関する資料を総合的に収集し、保管し、展示し、並びにこれらに関する調査研究及びその成果の普及を行うことにより、道民の教養の向上及び文化の発展に寄与する。

（２）事業内容

ア　北海道の自然・歴史・文化等に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
イ　収集し、保管し、又は展示する資料に関する専門的な調査研究を行うこと。
ウ　資料の保管及び展示等に関する技術的な研究を行うこと。
エ　アイヌ民族文化に関する調査研究及びその成果の普及、情報の収集及び提供並びに研究の支援を行うこと。
オ　北海道の自然・歴史・文化等に関する講演会、展示会等の催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。
カ　特別展示室及びその附属設備を北海道の自然・歴史・文化等に関する講演会、展示会等の催しの利用に供すること。
キ　資料に関し、案内書、解説書、目録、研究紀要等の作成及び配布並びに必要な説明、助言等を行うこと。
ク　他の博物館等と連携し、及びこれらの研究活動等に協力すること。

（３）組織（平成２７～２９年度）



（4）沿革

1971（昭和 46）年に設置された北海道開拓記念館は、北海道百年記念事業の一つとして開設された歴史系博物館である。開館以来、北海道開拓のなかで産み出された文化財を中心にさまざまな歴史資料を収集保存、調査研究し、それらを体系的に整えるとともに、常設展示を核とする展示活動や教育普及の諸事業を通して、北海道の歴史と先人の遺産を後世に伝える役割を果たしてきた。

1994（平成６）年に設置された道立アイヌ民族文化研究センターは、アイヌ民族文化に関する調査研究を行い、その成果の普及等を図り、もってアイヌ民族文化の振興に寄与することを目的として設置された。アイヌ民族文化の中でも継承が急務とされた、言語・口承文芸、芸能、伝統的生活技術等の無形の伝承文化を中心とした調査研究を行うと共に、その理解に欠かせない歴史についての調査研究を行い、その成果の普及に努めてきた。

2008（平成２０）年６月に国会で「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が採択され、その後政府が設置した「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」の報告書において、アイヌ文化に係る政策の提言がなされた。そうしたアイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心の高まりに伴い、両施設はさらなる研究の推進や、最新の研究成果に基づく展示や学習の機会、情報発信の充実が求められることとなった。また、道民の学習ニーズの多様化など、開拓記念館や道内の博物館を取り巻く社会情勢の大きな変化への対応が求められることとなった。

こうした状況の中、北海道は平成 20 年に北海道文化審議会に対して「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問し、その答申を受けて平成２２年９月に「北海道博物館基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定した。「基本計画」は「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の３つを柱とする北海道博物館の設置を目指すこととした。この中で、「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」として、アイヌ民族文化研究センターとの統合により、アイヌ文化に関する調査研究等の機能を充実することなどが「基本計画」の中に定められた。そして、平成２７年４月１日に北海道開拓記念館と道立アイヌ民族文化研究センターの２つの道立施設を統合し、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として『北海道博物館』を開設した。また開館に先立って、愛称を「森のちゃれんが」（道民公募）とし、新しいロゴマーク（民間企業等からの公募）を作成した。

（5）職員状況（平成３０年３月現在）　（人）

区　分	特別職	局室長級	課長級	主幹級	主査級	一般職	計
行政職		1	1	(1)	3	2	7 (1)
研究職		1	2 (1)	6	9	10	28 (1)
非常勤	4					13	17
計	4	2	3 (1)	6 (1)	12	25	52 (2)

※括弧は兼務

（6）北海道博物館基本的運営方針

ア　北海道博物館の使命

○　北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならで

はの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。

○　野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。

○　北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。

○　北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

イ　基本方針

１　北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります

（１）　総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。

（２）　道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。

２　道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します

（１）　さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。

（２）　博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけではなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

３　北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します

（１）　北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。

（２）　博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

４　専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。

（１）　北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。

（２）　アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

ウ　中期目標・計画の策定及び点検・評価の実施

北海道博物館が社会的使命を果たすため、基本方針を踏まえ、資料の収集保存、展示、教育普及、調査研究などの博物館活動の実施に関する中期的な目標・計画を別に策定し、これを公表するとともに、本方針及び中期目標・計画に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、その運営状況について、点検及び評価を行います。

（７）中期目標・計画

第１期中期目標・計画（平成２７年度～平成３１年度）については、基本的運営方針に基づき、次の３つの柱を重点項目として進める。

①　総合博物館かつ中核的博物館としての基本的な機能の充実や社会貢献など、信頼の確保に向けた取組を進める。

②　総合展示の入替えやイベントの充実など、来館者が繰り返し訪れるための魅力ある取組を進める。

③　道民の興味を喚起させる展示、イベント、広報の充実など、これまで博物館を利用しなかった道民が北海道博物館を訪れるための誘導力のある取組を進める。

（８）アイヌ民族文化研究センター事業推進方針

第１期中期目標・計画と整合を図った「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成２６～３１年度）補訂版」については、（７）の３つの柱を重点項目として進める。

〔経緯〕　第１期中期目標・計画（平成２７年度～平成３１年度）のアイヌ文化関連の項目は、平成２５年度にアイヌ民族文化研究センター運営協議会の決定を以て策定された「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成２５～３０年度）」を継承しながら策定された。統合後の平成２７年１１月には北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会が開催され、展示、教育普及等について第１期中期目標・計画との整合性を図った「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成２６～３１年度）補訂版」が了承された。

Ⅱ．総括評価

総括評価No.	１・２	対象とする中期目標・計画No.	１～４

北海道博物館基本的運営方針

１　北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります。

（１）総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。

（２）道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
1	A	・北海道博物館として必要なコレクションの受入れ・登録	基盤G
2	A	・公開承認施設としての資料保存環境の整備	基盤G
3	B	・総合展示の維持管理と資料の入替	基盤G
4	B	・総合博物館として様々な企画展を計画・実施	基盤G
5	A	・総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施	基盤G
6	A	・科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得	基盤G
7	S	・建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施。また、Wi-Fi整備、トイレ洋式化の工事を実施 ・「歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業」の実施 ・建造物の内部展示の改修計画の策定 ・北海道150年に向け「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」を基に、開拓の村のあり方について検討	企画G

総括評価		
視点	（1）博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○「弥永コレクション」の受入・登録（数年来の懸案事項を解消）（項目No.1） ○総合展示室における定期的な資料入替の実施（前年度同時期 21件→25件）（項目No.3） ○総合展示室ならびに特別展示室における防犯体制の整備（項目No.3） ○科学研究費補助金の総件数は減少したが、新規獲得率は全国平均（約25%）をほぼ維持（応募10件、獲得2件：採択率20%）（項目No.6） ○科学研究費補助金以外の外部資金による研究補助金を獲得（1件）（項目No.6） ○開拓の村における建物・施設等の改修工事の実施（項目No.7）	A
	②改善・注視を要する取組み ○資料移動の記録等については、館内でデジタルデータとして共有し、記録・数値を客観的に確認できるような仕組みが不十分（項目No.3） ○総合展示室ならびに特別展示室の利用者数実績が目標を下回る見込み（項目No.3、４） （総合展示室：目標値110,000人／利用者数74,554人） （特別展示室：目標値　80,000人／利用者数38,403人） ○研究課題・成果の総数は評価できるが、実施者に偏りがある点は課題（項目No.5）	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 総括評価No.１について、項目別評価は妥当であり、A評価とする。	

総括評価No.	3

対象となる中期目標・計画No.	5、6、8～10

北海道博物館基本的運営方針

２　道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します。

（1）さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
8	S	・子ども向けの魅力あるイベントの充実	道民G
9	A	・子ども向けの教材の開発	道民G
10	B	・利用者ニーズに適合させたはっけん広場の充実化	道民G
11	A	・ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取組み	社貢G
12	B	・アメニティ施設の設置 ・オリジナルグッズの販売 ・施設の活用に向けた基準の策定	総括G
13	B	・サインの仕様や設置費の確保、設置箇所等の検討、土地所有者への協力依頼	総括G
14	A	・野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	総括G
15	B	・利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践	道民G
16	A	・「北海道博物館赤れんがサテライト」の充実化	道民G
17	B	・北海道立総合博物館協議会・専門部会の開催と運営、中間外部評価の実施と報告書作成 ・内部評価の計画的実施 ・オーディエンス・リサーチの実施	企画G

総括評価		
視点	（3）利用者の視点に立った博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○イベント参加者数が目標値を大きく超えた（目標値：6,000人、実績数：13,715人）（項目No.8） ○スマートフォンアプリを使用した多言語解説サービスの使用拡大（項目No.9） ○体験ゾーンである「はっけん広場」の充実化に向けた改善（項目No.10） ○学校向け広報における新たな試み（本州でのPR活動）の実施（項目No.15）	B
	②改善・注視を要する取組み ○「展示室での随時の総合解説」という利用者からの要望への対応は未整備（項目No.8） ○学校向け貸出教材が未整備（項目No.9） ○展示室の来館者数減にも伴い、「はっけん広場」の利用者数が目標値に達しない見込み（目標値：26,000人、実績数：18,585人）（項目No.10） ○館外研修で得た結果を館内で共有できる仕組みが未整備（項目No.11） ○先々には、研修についてはプログラム改善のために、参加者からの率直な感想を得る方策を考える必要がある（館宛の礼状では、忌憚ない意見は得られないため）（項目No.11） ○入館者数の増加につなげるため、広報の強化が必要（項目No.15） ○ホームページのアクセス数が、前年度同時期と比して、継続的な減少傾向にあり、分析が必要（前年度同時期：184,181件→162,564件）（項目No.15）	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 広報体制は、来館者数等の増加にも結びつくことから、さらなる強化が必要となることを重視し、総括評価No.３全体についても、Ｂ評価とする。	

総括評価No.	4

対象とする中期目標・計画No.	7、10

北海道博物館基本的運営方針

２　道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します。

（2）博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけではなく、協働者、ときには　発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
17	B	・北海道立総合博物館協議会・専門部会の開催と運営、中間外部評価の実施と報告書作成 ・内部評価の計画的実施 ・オーディエンス・リサーチの実施	企画G
18	B	・道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立	企画G

総括評価		
視点	（4）道民との連携、協働する博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み 〇文化庁の「文化芸術振興費補助金」を活用した取り組み（北のミュージアム活性化実行委員会の活動）による、道内博物館ネットワークなどの推進（項目No.18）	B
	②改善・注視を要する取組み 〇オーディエンスリサーチなどの来館者調査については、博物館協議会からの改善の指摘に対する検討・反映が未実施（項目No.17） 〇道民参加型組織の展開（重要なミッションであるが、検討にとどまり未実施）（項目No.18）	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 総括評価No.4について、項目別評価は妥当であり、B評価とする。	

総括評価No.	5	対象とする中期目標・計画No.	11

北海道博物館基本的運営方針

３　北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します。

（１）北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
19	A	・質の高い連携による、企業や民間団体、図書館、博物館、自治体等との連携・協力事業の実施	社貢G

総括評価		
視点	（5）北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○日本博物館協会の北海道支部代表館および北海道博物館協会事務局を担うことによる、北海道の中核的博物館としての道内博物館ネットワークに対する貢献	A
	②改善・注視を要する取組み ○連携・協力件数の記録については、館内でデジタルデータとして共有し、連携・協力の分類を含めて客観的に確認できるような仕組みが不十分	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 総括評価No.5について、項目別評価は妥当であり、Ａ評価とする。	

総括評価No.	6	対象とする中期目標・計画No.	12

北海道博物館基本的運営方針

３　北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します。

（2）博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
20	B	・図書室の蔵書の充実及び利用促進 ・レファレンスサービスの記録化及び活用	社貢G

総括評価		
視点	（6）道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み 〇図書類の整理作業において、利用見込みのない図書類を廃棄するための方針の策定ならびに廃棄の実施	B
	②改善・注視を要する取組み 〇来年度以降の課題として、ICTワーキングチームの設置のみならず、次のシステム更新（平成32年度）に向けて、館の情報システム全体の管理についての検討が必要 〇レファレンス集計記録の着実な実施ならびに記録率の向上 〇レファレンス内容について館内で情報を共有化する仕組みの策定	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 総括評価No.6について、項目別評価は妥当であり、B評価とする。	

総括評価No.	7	対象とする中期目標・計画No.	13、14

北海道博物館基本的運営方針

４　専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。

（１）北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
21	A	・博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成 ・博物館学系領域の充実化	社貢G
22	A	・研究成果の多様な発信	社貢G
23	A	・道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制づくり	企画G

総括評価		
視点	（7）研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み 〇博物館実習（館務実習）のカリキュラムの充実（項目No.21） 〇「社会貢献の目標値」に対する実績数は、目標値を大きく超えた（項目No.22）	A
	②改善・注視を要する取組み 〇先々の課題として、博物館実習については、プログラム改善のために、参加者からの率直な感想を得る方策を考える必要がある（館宛の礼状だけでは、忌憚ない意見は得られないため）（項目No.21） 〇「社会貢献の目標値」は全体的には目標を超えているが、「学術雑誌等への寄稿」は前年度から大きく減少しており注視が必要（前年度実績（４月～3月）：45件→21件）（項目No.22） 〇館全体での実績数のみならず、学会発表・論文投稿（研究紀要への投稿）を行っている職員に偏りや固定化がないかといった点にも注視が必要（項目No.22）	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 総括評価No.７について、項目別評価は妥当であり、A評価とする。	

総括評価No.	8

対象	アイヌ民族文化研究センター実施分

北海道博物館基本的運営方針

４　専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。

（2）アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
1	B	・クローズアップ展示３、４の計画策定。計画には多様な分野・テーマを盛り込むよう留意 ・アイヌ文化Q&Aの定期的な追加・更新実施 ・総合展示資料の入れ替え基準を定め、入れ替え計画策定	アイヌ研
2	A	・第10回企画テーマ展の開催 ・第3回巡回展の開催 ・平成30年度以降の企画テーマ展、蔵出し展、巡回展等の開催計画の策定。特別展開催に関する検討	アイヌ研
3	A	・調査研究や研究内容を検討する時間の確保に努め、研究内容を充実させる	アイヌ研
4	B	・資料の整理・登録・配架規格の策定 ・計画に基づく資料登録の実施 ・新収蔵資料紹介の継続的実施 ・資料の所在調査等の継続実施	アイヌ研
5	B	・資料群ごとの公開計画の策定 ・計画に基づく新規公開の実施	アイヌ研
6	B	・ウエブサイト（ホームページ）の更新計画の策定 ・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の掲載資料・コンテンツの追加	アイヌ研
7	B	・ホームページ等での情報発信の再開	アイヌ研
8	B	・アイヌ文化に関する普及事業の効果的な実施体制	アイヌ研
9	A	・研究紀要、企画テーマ展等を通して研究成果を積極的に発信し、その内容を充実させる	アイヌ研

総括評価		
視点	（8）アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○団体向けの簡易解説である「グループレクチャー」のうち、アイヌ関連の件数は前年度と比して増加（前年度同時期：22件→33件）。そのほか、アイヌ関連のレファレンス件数も増加しており（前年度同時期：48件→79件）、アイヌ文化に関する学習・照会先としての北海道博物館アイヌ民族文化研究センターの認知度は緩やかに上昇していると言える。	B
	②改善・注視を要する取組み ○旧道立アイヌ民族文化研究センターで公開していた「アイヌ語アーカイブ」などのアイヌ文化情報発信コンテンツは、平成27年11月より運用した、現在の収蔵資料情報システム上では追加・更新ができない仕様になっているため、平成27年度以来の課題となっている。「アイヌ語アーカイブ」を継続的に残していくためには、情報システムそのものの抜本的な方策が必要である。	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 総括評価No.８について、項目別評価は概ね妥当であり、B評価とする。	

総括評価No.	9

対象とする中期目標・計画No.	

外部評価項目

ガバナンス体制の育成

平成27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、中期目標・計画とは別に設定した項目である。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
24	B	・課題の共有と解決	総括G
10	B	・研究センター会議（副館長・センター長・非常勤職員の会議／職員全体の会議等）の定例化	アイヌ研
25	A	・課題の共有と解決	文化振興課

総括評価		
視点	（9）各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み 〇運営会議による、館内の情報共有（項目No.24） 〇運営会議における重要な議事事項などについて、文化振興課（本庁）との情報共有・連携（項目No.24） 〇本庁からの提案や議論などを北海道博物館と共有（項目No.25）	B
	②改善・注視を要する取組み 〇運営会議は、北海道博物館の意思決定機関であることから、そこでの議論・議事の取りまとめのあり方について、検討する必要がある（項目No.24） 〇運営会議による館内の情報共有は図れているものの、懸案事項のローリング化については依然として課題となっている（項目No.24） 〇内部評価や協議会を経て出てきた達成状況ならびに課題を明文化し、次年度の計画や評価の議論に引き継いでいくことが重要	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 総括評価No.９について、項目別評価は妥当であり、B評価とする。	

Ⅲ．項目別評価

総括評価・項目別評価　項目一覧

【総括評価項目】
（１）博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置
（２）道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置

［対象となる項目別評価の目標（値）］

№１　北海道博物館として必要なコレクションの受入れ・登録……２１
№２　公開承認施設としての資料保存環境の整備……２２
№３　総合展示の維持管理と資料の入替……２３
№４　総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施……２４
№５　総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施……２５
№６　科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得……２６
№７　建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施　ほか……２７

【総括評価項目】
（３）利用者の視点に立った博物館づくりへの措置

［対象となる項目別評価の目標（値）］

№８　子ども向けの魅力あるイベントの充実……２８
№９　子ども向けの教材の開発……２９
№１０　利用者ニーズに適合させたはっけん広場の充実化……３０
№１１　ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取組み……３１
№１２　アメニティ施設の設置。オリジナルグッズの販売　ほか……３２
№１３　サインの仕様や設置費の確保、設置箇所等の検討　ほか……３３
№１４　野幌森林公園内の利便性と満足度の向上……３４
№１５　利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践……３５
№１６　「北海道博物館赤れんがサテライト」の充実化……３６
№１７　北海道立総合博物館協議会・専門部会の開催と運営　ほか……３７

【総括評価項目】
（４）道民との連携、協働する博物館づくりへの措置

［対象となる項目別評価の目標（値）］

№１７　北海道立総合博物館協議会・専門部会の開催と運営　ほか……３７
№１８　道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立……３８

【総括評価項目】
（５）北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置

［対象となる項目別評価の目標（値）］

№１９　質の高い連携による、企業や民間団体等との連携・協力事業の実施……３９

【総括評価項目】
（６）道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置

［対象となる項目別評価の目標（値）］

№.２０　図書室の蔵書の充実及び利用促進　ほか……４０

【総括評価項目】
（７）研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置

［対象となる項目別評価の目標（値）］

№.２１　博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成……４１
№.２２　研究成果の多様な発信……４２
№.２３　道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制づくり…４３

【総括評価項目】
（８）アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置

［対象となる項目別評価の目標（値）］

№.１　クローズアップ展示３、４の計画策定　ほか……４６
№.２　第１０回企画テーマ展の開催。第３回巡回展の開催　ほか……４７
№.３　調査研究や研究内容を検討する時間の確保、研究内容を充実……４８
№.４　資料の整理・登録・配架規格の策定　ほか……４９
№.５　資料群ごとの公開計画の策定……５０
№.６　ウエブサイト（ホームページ）の更新計画の策定……５１
№.７　ホームページ等での情報発信の再開……５２
№.８　アイヌ文化に関する普及事業の効果的な実施体制……５３
№.９　研究紀要、企画テーマ展等を通して研究成果を積極的に発信……５４

【総括評価項目】
（９）各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置

［対象となる項目別評価の目標（値）］

№.２４　課題の共有と解決……４４
№.１０　研究センター会議の定例化……５５
№.２５　課題の共有と解決……４５

中期目標・計画番号	1-1	目標値番号	1	担当	学芸部博物館基盤グループ

第１期中期目標・計画項目
１　資料の収集・保存
（1）資料の収集

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
	○			

中期目標・計画
ア　資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。
イ　収集した資料については、速やかに調査し、適切に整理・分類・登録する。
ウ　一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについては、広く公表するとともに、展示や研究などでより多くの道民及び関連機関が活用できるように、資料群の全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。

点検項目集計	計	○	×
	7	6	1

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。 ・収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。 ・一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。 ・貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進めるとともに、整理するための分類を再検討する。	・北海道博物館として必要なコレクションの受入れ・登録 【判断数値設定】　有 ・資料審査会の実施回数 ・受入資料件数	・「北海道博物館資料収集基本方針」に基づく貴重なコレクション等の資料収集については、北海道拓殖銀行野球部の資料（以下、「拓銀野球部資料」）を一括で収集した。また、弥永北海道博物館に収蔵されていた資料（以下、「弥永コレクション」）を一括で収集した。 ・上記以外の資料については、資料に関する情報（「資料情報処理票」）を４８件受理した。それを担当者（各研究グループ）で回覧・検討し、資料受入の可否を決定する「資料審査会」（今年度は１月末までで9回開催）では、17件の受入希望資料について検討を行った。 ・今年度は、１７２７件２５６５点の資料の受入を行った（件数・点数は、平成３０年1月末現在）。 ・収集資料の調査、整理・分類・登録・写真撮影・収蔵番号注記等については、収集から保存処理と収蔵までの流れと進捗状況を「資料審査会」で毎回、確認することで常に作業を相互に意識できる体制づくりを実施している。 「拓銀野球部資料」の受入にあたっては、既に収蔵されている資料の大幅整理・再配架により、配架に必要な収蔵スペースを確保して、整理・保存処理後に収蔵庫へ配架した。「弥永コレクション」については、担当者ごとに整理・一括資料目録作り、配架場所の確保を行い、保存処理後に配架した。 ・一括で寄贈を受けた貴重なコレクションの目録刊行については、『北海道博物館一括資料目録　第１集　弥永コレクション』を作成・刊行した。「弥永コレクション」以外の一括資料については、受け入れ担当者から目録刊行の希望がないため、作成を予定していないが、刊行希望があったうえで、「資料審査会」での了承、予算確保等がクリアできれば、一括資料目録刊行を継続していく予定である。 ・貴重コレクションの受入等に伴う全体的作業工程の再整備及び分類の再検討については、資料の受入について議論する「資料審査会」の時点で、配架スペースや活用までの検討をすることとした。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） 資料審査会の実施回数　9　回 受入資料件数　1,727　件	・貴重な資料を収集・受入・登録し、寄贈者に対しては、8年来の懸案事項であった「弥永コレクション」の収集については、寄贈者の希望を尊重し、道としての知事感謝状の贈呈ならびに展示会（第9回企画テーマ展「弥永コレクション」）の開催、さらには展示会の開催に伴う一括資料目録の刊行ができたことは評価できる。 ・資料の受入にあたって、定期的な資料審査会を開催し、受入検討時点で配架スペースや活用までの検討をする流れを作って実践したことで、これまでは停滞していた資料の活用と速やかな登録に役立てることができた。	A	・資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。 ・収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。 ・一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。 ・貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進めるとともに、整理するための分類を再検討する。	未登録資料の整理・受入 【判断数値設定】　有 ・資料審査会の実施回数 ・受入資料件数

中期目標・計画番号	1-2～4	目標値番号	2	担当	学芸部博物館基盤グループ

第１期中期目標・計画項目
１　資料の収集・保存
（2）収蔵機能の強化　（3）資料保存環境の維持　（4）収蔵資料の利用への対応

プライオリティ	H27	H28	H29	H30	H31
（2）収蔵機能の強化	○				
（3）資料保存環境の維持					
（4）収蔵資料の利用への対応					

中期目標・計画
（2）収蔵機能の強化
ア　収蔵資料データベースの適正な運用により、資料の受入れ、出納やコンディショニング情報を一元的に管理する体制を強化するとともに、利用者への資料情報の提供に役立てる。
イ　東日本大震災時の教訓を活かし、災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制を整備する。
ウ　市町村合併など地域社会の急激な変動による資料の散逸などの課題に対し、北海道の中核的博物館として、北海道の自然・歴史・文化遺産を保存・継承するためのプロジェクトを推進し、その受け皿としての収蔵スペースの確保について検討を進める。
（3）資料保存環境の維持
　貴重な公共の財産を預かる立場から、温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（ＩＰＭ）、災害対策などを徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。
（4）収蔵資料の利用への対応
　収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応し、より多くの人びとが北海道博物館の収蔵資料を利用する機会を創出する。

点検項目集計	計	○	×
(2)	6	4	2
(3)	5	4	1
(4)	3	3	0

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
（2）収蔵機能の強化 ・収蔵資料データベースの資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。 ・災害発生時における被災資料の受入れや保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。 ・収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。 （3）資料保存環境の維持 ・温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（ＩＰＭ）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。 （4）収蔵資料の利用への対応 ・収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。	・公開承認施設としての資料保存環境の整備 【判断数値設定】　有 ・一元化後の資料登録件数 ・資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数 ・IPMに関わる作業の実施回数	（2）収蔵機能の強化 ・収蔵資料データベースの運用については、月に１度開催している「資料審査会」にて、資料情報登録の進捗状況をチェックしていることもあり、資料情報登録の件数は徐々に増加している。資料移動の記録については、今後の継続課題である。 ・災害発生時における被災資料受入・保存処理等の機能・体制整備に向けた検討については、①備えるべき基本的な機能、②整備状況(受入動線、施設・機材・資材、人材等)、③今後の課題などについて検討中である。 ・収蔵庫各室の用途見直し等による収蔵スペースの確保については、新たに受入れた一括コレクションである「拓銀野球部資料」を収蔵するスペースを確保するため、収蔵資料の移動・再配架を行った。 （3）資料保存環境の維持 ・薬剤だけに頼らない虫菌害防除対策（ＩＰＭ）として、平成３０年1月末日現在の主なＩＰＭに関わる作業の実施内容は以下のとおりである。 ①資料収蔵環境管理等連絡会議：１０回実施。②捕虫トラップ(１１４カ所)の設置と調査：10回実施。全頭調査(報告)；1回実施。③収蔵環境調査：４回(落下菌調査1回、空気質調査で有害物質測定3回)実施。④収蔵庫清掃：展示場・収蔵庫の大掃除（各1回）を含め10回実施。⑤新展示ケースなどの「からし」作業：恒常的に実施。⑥二酸化炭素殺虫処理：１３回実施。⑦収蔵庫内巡回等：563回(庫内点検425回、害虫除去68回、マット交換70回)実施。⑧収蔵庫内除湿機稼働：６５回実施。⑨その他の収蔵環境の問題解決：収蔵庫シーリング作業、カビが発生した資料ならびにその収蔵環境に関する調査、漏水対応などを実施。⑩新着資料及びカビが確認された資料の薬剤燻蒸（外部発注）：1回実施。⑪公開承認施設会議に、資料管理担当・保存担当者が参加。報告書等により館職員の意識向上と事務手続き上の注意点の情報共有を図った。 （4）収蔵資料の利用への対応 ・収蔵資料の利用への貸出し対応については、特別観覧申請件数４５件、模写品等使用申請件数135件、資料貸出件数22件274点である。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） 一元化後の資料登録件数　184,814　件 資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数　10　回 IPMに関わる作業の実施回数　681　回	収蔵機能の強化については、収蔵スペース及び作業スペースの確保が博物館としての基本であるとともに、最も困難なことでもある。当館は、作業室や通路を適切に確保・維持することで災害等に強い博物館を目指している。また、収蔵スペースの確保については、常に今より適切な収蔵状況になるように資料整理を継続することで、新規資料を受け入れるスペースの確保に努めていることは、同年代に建設された博物館施設と比較しても十分評価できるところである。 日常的なＩＰＭについては、資料管理を担当する「博物館基盤グループ」が中心となって、全館的な清掃や普段の片付けなどが根付きつつある。文化庁から求められた全館的IPM体制について、公開承認施設として相応しい体制に近づきつつある。	A	（2）収蔵機能の強化 ・収蔵資料データベースの資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。 ・災害発生時における被災資料の受入れや保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。 ・収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。 （3）資料保存環境の維持 ・温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（ＩＰＭ）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。 （4）収蔵資料の利用への対応 ・収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。	・公開承認施設としての資料保存環境の整備 【判断数値設定】　有 ・一元化後の資料登録件数 ・資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数 ・IPMに関わる作業の実施回数 ・特別観覧（収蔵資料の熟覧）承認申請数 ・模写品等刊行等（収蔵資料の出版物等への写真・図版掲載）承認申請数 ・資料貸出資料件数

中期目標・計画番号	2-1	目標値番号	3	担当	学芸部博物館基盤グループ

第１期中期目標・計画項目
２　展示
（1）総合展示室の運営

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	×
	21	18	3

中期目標・計画
ア　最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な入替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。
イ　総合展示の展示資料について、道民及び関連機関に知らせるため、その全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。
ウ　総合展示のメンテナンスに努める。
総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（5年間）
総合展示室利用者数	362,000人
うち外国人利用者数	19,000人

平成29年度

年度計画

・総合展示の定期的な入替えを実施する。

・障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。

・総合展示のメンテナンスに努める。

・総合展示の防犯体制の見直しを進める。

・子どもの興味を喚起する展示手法を導入する。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	平成29年度
総合展示室利用者数	110,000人
うち外国人利用者数	4,000人

目標（値）

総合展示の維持管理と資料の入替

【判断数値設定】　有

・クローズアップ展示の件数

・総合展示室の展示品の入替件数

項目別評価（平成29年度の実施状況）

達成状況

・総合展示内で定期的な資料入替を行っている「クローズアップ展示」の展示替えを計画どおりに、下記の合計２５回実施した。この展示替えにより、最新の研究成果を紹介し、新着資料・館蔵資料を公開するなど、飽きない楽しめる展示を提供することに努めた。また、展示ワーキングチームにおいて来年度のクローズアップ展示計画を策定した。
　クローズアップ展示①、②（１テーマ）：各５回
　クローズアップ展示③～⑦（２～５テーマ）：各３回

・「クローズアップ展示」以外の、総合展示室１～５テーマの展示資料入替件数は３３件である。その他、プロローグ展示で２件、職員紹介コーナー展示で５件の展示資料入替を実施した。この展示替えにより、最新の研究成果の紹介、新着資料・館蔵資料の公開を促進した。

・スマートフォンを利用したミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を継続して運用し、すべての人が利用しやすい展示空間の整備を進めた。また、昨年度に引き続き、展示計画等を議論する「展示ワーキングチーム」会議において、障がい者向けの「さわれる展示」、音声解説装置、外国人向けの多言語解説ボードなどについて、利便性の改善・向上に向けた検討を進めた。

・展示ケース・設備等の破損を指定管理者とともに点検し、総合展示のメンテナンスを行った（３回）。

・総合展示室の定期的な巡回・点検を実施し防犯に努めるとともに、防犯カメラシステムの導入に向けた検討を進めた。また、特別展示室に防犯カメラシステムを設置し、警備室・事務室でモニターする体制を整備した。これは、2回の「防犯カメラ検討会」の結果を踏まえた総合展示室への防犯カメラシステム導入に向けた試行でもある。

・子どもの興味を喚起するため、子ども向けクイズ・スタンプワークシートの配布などを行い、子ども向けの展示手法について検討を進めた。

年度計画実績（平成29年4月～平成30年1月）

総合展示室利用者	74,554	人
うち外国人利用者	4,049	人

目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月）

クローズアップ展示の件数		25	件
総合展示室の展示品の入替件数（クローズアップ展示を除く）	全体	33	件
	第1テーマ	23	件
	第2テーマ	7	件
	第3テーマ	3	件
	第4テーマ	0	件
	第5テーマ	0	件

自己評価

・計画どおり定期的にクローズアップ展示の展示替えおよび資料入替を実施できた。前年度と比較して展示替え及び資料入替の回数を増やせたことは評価できる。

・展示内容の維持・充実に努めたが、結果として利用者数が伸びず、総合展示室の利用者数目標値に到達できなかったことから評価基準はB評価とした。

・来館者のアンケート等による意見を参考に、障がい者、外国人の利便性改善・向上に向けた検討を進めたが、具体的な整備にはいたっていない。

・総合展示の破損等について定期的に点検を行い、修繕に努めたことは評価できる。

・総合展示の定期的な巡回・点検を実施し、防犯に努めたことは評価できる。また前年度からの懸案事項である防犯カメラシステムの導入に向けた検討・試行を進めたことは評価できる。

・子ども向けの試みとして第８回企画テーマ展「夜の森」の開催にあわせて子ども向けクイズ・スタンプワークシートの配布を行い、総合展示室と特別展示室の相互利用を促進させたことは評価できるものの、子ども解説向けパネルの導入などについて検討を進めたが、具体的な整備にはいたっていない。

評価基準

B

平成30年度

年度計画（案）

・総合展示の定期的な入替えを実施する。

・総合展示室と特別展示室の相互利用を促進する展示手法を導入する。

・すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。

・総合展示のメンテナンスに努める。

・総合展示の防犯体制の見直しを進める。

・子どもの興味を喚起する展示手法を導入する。

※　総合展示については、部分的な資料入替は実施しているが、基本的に現在の展示を維持していくことになるため、実現可能な目標値として、当初5年間の目標値の1年間分（362,000人÷5年=72,400人）を目標値とした。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。

総合展示室利用者数	72,400	人
うち外国人利用者数	4,000	人

目標（値）（案）

総合展示の維持管理と資料の入替

【判断数値設定】　有

・クローズアップ展示の件数

・総合展示室の展示品の入替件数（クローズアップ展示を除く）

中期目標・計画番号	2-2	目標値番号	4	担当	学芸部博物館基盤グループ

第１期中期目標・計画項目
２　展示
（2）企画展示の開催

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	7	6	1

中期目標・計画
ア　他の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。
イ　道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。
ウ　北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。
　特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（5年間）
特別展示室利用者数	288,000人

平成29年度

年度計画

・民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。

・研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。

・次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。

特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	平成29年度
特別展示室利用者数	80,000人

目標（値）

・総合博物館として様々な企画展を計画・実施

【判断数値設定】　有

・企画展の利用者数と満足度

・その他、館内外で実施した展示件数

項目別評価（平成29年度の実施状況）

達成状況

・NPO法人北海道野球協議会、朝日新聞社、北海道新聞社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、NHK札幌放送局、一般財団法人北海道歴史文化財団、株式会社札幌ドーム、株式会社北海道日本ハムファイターズ、ミズノ株式会社、イオン北海道株式会社と連携し、企業連携及び地域連携による大規模かつ魅力的な企画展示として特別展「プレイボール!」を開催した。

・これまでの研究成果を反映した展示としては、第８回企画テーマ展「夜の森」、第１０回企画テーマ展「カムイとアイヌの ものがたり」を開催した。また、収蔵資料を積極的に公開する展示としては、弥永北海道博物館旧蔵の一括資料により、第９回企画テーマ展「弥永コレクション」を開催したほか、北海道拓殖銀行野球部からの一括資料の一部を、特別展「プレイボール！　―北海道と野球をめぐる物語―」で展示公開した。

・外部連携展示は、第8回企画テーマ展「夜の森」にあわせて中島宏章写真展「あなたの街のコウモリの森」を開催した。また、特別展「プレイボール!」に関連した朝日新聞北海道支社主催「北海道の高校野球展」（札幌円山球場、旭川市民文化会館）に展示協力した。

・道民参加型の展示は、休憩ラウンジを利用して、北海道化石会と連携した「アンモナイト」展を開催した。

・展示計画を議論する「展示ワーキングチーム」会議では、次年度以降の企画展示の計画を策定した（今年度は１月末までで８回開催）。また、次年度の特別展開催に向けて「プロジェクトチーム」を組織し、事務局会議４回を行ったほか、事前調査などの準備を進めた。

年度計画実績（平成29年4月～平成30年1月）

特別展示室利用者数	38,403	人

目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月）
第2回特別展（7/8～9/24）
プレイボール！―北海道と野球をめぐる物語―

利用者数	19,565	人
満足度	94.8	%

第8回企画テーマ展（4/28～6/5）
夜の森 ―ようこそ！ 動物たちの世界へ―

利用者数	10,484	人
満足度	96.3	%

第9回企画テーマ展（10/14～12/24）
弥永コレクション

利用者数	8,354	人
満足度	98.2	%

その他、館内外で実施した展示件数	2	件

自己評価

・特別展「プレイボール！」については、NPO法人北海道野球協議会及び民間企業との連携により展示資料の充実、広報の強化などを実施し、新たな来館者層を得たことは評価できる。アンケートによると来館者の満足度が高く、魅力的な展示を提供できたことも評価できる。また、特別展、企画テーマ展の開催にあわせて外部連携展示を展開することができた。

・企画テーマについては、前年度同時期よりも多くの利用者を得ることができた。特別展については、利用者が多い時期に開催し、展示内容の充実及び広報に力を注いだが、結果として利用者数が伸びず、特別展示室の利用者数目標値に到達できなかった。

・３回の企画テーマ展の開催を通じて、研究成果を広く普及し、収蔵資料を積極的に公開した。また、北海道化石会と連携した道民参加型展示について、前年度試行した成果を受けて、本年度から本格的に運営を開始したことは評価できる。

・展示ワーキングチーム会議を定期的に８回開催し検討を重ね,来年度以降の企画展示計画を策定したことは評価できる。

評価基準

B

平成30年度

年度計画（案）

・北海道150年を記念した魅力的な企画展示を本庁、道内外の博物館、民間企業等と連携して開催する。

・研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。

・次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。

特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。

特別展示室利用者数	80,000	人

目標（値）（案）

・総合博物館として様々な企画展を計画・実施

【判断数値設定】　有

・企画展の利用者数と満足度

・その他、館内外で実施した展示件数

中期目標・計画番号	3-1

目標値番号	5

担当	学芸部博物館基盤グループ

第１期中期目標・計画項目
３　調査研究
（1）調査研究の推進

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	15	13	2

中期目標・計画
ア　北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会の提供につなげる。
イ　道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を設ける。
ウ　外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。
エ　北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、地理的・歴史的につながりのある地域、類似点のある地域の博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。
オ　館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・地域情報集積プロジェクト5課題、「自然・歴史・文化」総合研究3課題を前年に引き続き実施する。最終年度となる3課題について、成果をまとめるとともに、次年度からの研究課題の立ち上げに向けて、早くから検討を行う。 ・調査研究のあり方を検討し、研究推進を図る場として設置した調査研究ワーキングチーム等において、調査研究への道民参加の具体的仕組み作り、道民の研究成果の発表の場の確保の具体案について検討を進め、実現を図る。 ・サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究を継続して実施し、合せて友好関係を深める。 ・月1回の定例研究報告会を継続して実施。外部講師の招へいを検討し、実現を図る。	総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施 【判断数値設定】　無	・「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト（5課題）、「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト（3課題）を前年に引き続き実施している。このうち、今年度限りで予定の最終年度である3課題について、1課題は一年間延伸することとし、他の2課題は、それぞれ成果のとりまとめを図るとともに、翌年度に向けた方針を議論し、新規課題立ち上げの準備を進めている。 ・調査研究への道民参加としては、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」のうち一つについて、各地域の住民の参加を得た公開研究会を開催したほか、各プロジェクトの調査実施過程で地域住民の協力を求め、参加を得ている。 ・道民の自主的な研究活動や研究発表の場として、ラウンジでの展示を実施中である。 ・サハリン州郷土博物館と覚書を締結して実施している５年間の共同研究の一環として、同館に2名の研究者を派遣し、サハリン州内において海岸漂着物および生物相に関する共同調査を実施した。 ・ロイヤル・アルバータ博物館と覚書を締結して実施している共同研究の一環として、同館から2名の研究者を招へいし、道内において、鳥類を中心とした生物学および先住民関係資料の状況についての共同研究を実施した。 ・月1回の館内定例研究報告会を定例的に開催した。外部講師の招へいについては実現に至らなかった。	・前年度立ち上げた各研究プロジェクトを遂行し、翌年度以降も同程度の規模・件数のプロジェクトを実施するよう、年度内に終了する課題については新規課題立ち上げに向けた準備を進めることができた。ただし、今年度限りで終了する課題のうち、年度内に十分な成果発表に至っていないものもあり、これについては次年度以降の取りまとめ等を図る必要がある。 ・サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との研究者の相互派遣は、計画通りの規模でそれぞれその第一回を実施し、充実した共同調査を行った。 ・調査研究への道民参加については、研究課題によっては実現を見た。だが、道民の研究活動の推進や成果発表の場の確保の実現は、なお個別的なものにとどまった。 ・館内での研究報告会は計画通り月1回の頻度で定例的に開催した。外部講師の招へいを実現できなかったのは反省点。	A	・新規立ち上げを含め、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト5課題、「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト3課題を実施する。最終年度となる4課題について成果をまとめるとともに、次年度からの研究課題の立ち上げに向けて、早くから検討を行う。 ・調査研究のあり方を検討し、研究推進を図る場として設置した「調査研究ワーキングチーム」等において、調査研究への道民参加の具体的仕組み作り、道民の研究成果の発表の場の確保の具体案について検討を進め、実現を図る。 ・サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究を継続して実施し、合せて友好関係を深める。 ・月1回の定例研究報告会を継続して実施。外部講師の招へいを検討し、実現を図る。	総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施 【判断数値設定】　無

中期目標・計画番号	3-1

目標値番号	6

担当	学芸部博物館基盤グループ

第１期中期目標・計画項目
３　調査研究
（1）調査研究の推進

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	15	13	2

中期目標・計画
ア　北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会の提供につなげる。
イ　道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を設ける。
ウ　外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。
エ　北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、地理的・歴史的につながりのある地域、類似点のある地域の博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。
オ　館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、館として取り組むべき研究課題のあり方について議論を進めつつ、新規課題の申請を積極的に行う。 ・その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続きを行う。	科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得 【判断数値設定】　無	・科学研究費補助金については、前年度からの継続8件に加え、新規2件、計10件を獲得し、研究を実施し（うち1件は研究代表者職員の中途退職により中止）、随時その成果を発表している。館として取り組むべき課題のあり方や、獲得数増に向けた方策について「調査研究ワーキングチーム」において議論を重ね、来年度以降については新規12件の申請をおこなった。 ・科学研究費補助金以外の外部資金については、情報収集して研究職員への周知を図り、新規に2件の申請をおこない、うち1件の採用を得た。	・科学研究費補助金については、新規獲得件数が終了・転出件数を下回ったため総件数は減少した（17→10）が、今年度も新規採択率は全国的な平均を維持しており、継続的に獲得することができていると評価できる。館として取り組むべき研究課題のあり方や新規獲得に向けた方策について議論をし、昨年度と比べて課題設定の精査や申請数の増を実現することができたのは良かった。 ・それ以外の外部資金を新規1件獲得した。	A	・科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、館として取り組むべき研究課題のあり方について議論を進めつつ、新規課題の申請を積極的に行う。 ・その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続きを行う。	科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得 【判断数値設定】　無

中期目標・計画番号	4	目標値番号	7	担当	総務部企画グループ

第１期中期目標・計画項目
４　北海道開拓の村の整備

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
	○	○	○	○

中期目標・計画
ア　北海道開拓の村に移築・復元されている歴史的建造物群を、北海道の貴重な財産として後世に伝える取組を進める。
イ　建造物内の展示の充実に取り組む。

点検項目集計	計	○	×
	3	3	0

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・平成29年度北海道開拓の村施設整備計画にしたがって建造物の補修工事等を実施する。また、Wi-Fi整備、トイレ洋式化の工事を実施する。 ・地方創世拠点整備交付金による「歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業」を実施する。 ・平成30年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。 ・平成28年度に引き続き、北海道開拓の村内部展示の改修・改訂について検討を進め、建造物内部展示改修・改訂整備計画を策定する。 ・「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」をもとに、開拓の村のありかたについて、北海道150年に向けた具体的な検討を進める。	・建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施。また、Wi-Fi整備、トイレ洋式化の工事を実施。 ・「歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業」の実施。 ・建造物の内部展示の改修計画の策定。 ・北海道150年に向け「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」を基に、開拓の村のあり方について検討。 【判断数値設定】　無	平成29年度北海道開拓の村施設整備計画にしたがって、以下の補修工事等を実施した。 ①地方創世拠点整備交付金による「歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業」（国費1/2）として、旧小川家酪農畜舎ならびに旧菊田家農家住宅の改修工事、同建物の内部展示の改修、馬車鉄道軌道延伸工事、多言語解説板整備工事（5カ国語）、吊り橋改修工事、体験教材等の整備、牧野牧柵改修工事の実施。 ②「インバウンド等観光交流基盤整備加速事業」として、Wi-Fi整備工事、トイレ洋式化工事の実施。 ③旧若狭家たたみ倉、旧龍雲寺の補修工事実施設計、旧武井商店酒造部、旧三⊠河本そば屋の老朽度調査を実施。 ・平成30年度北海道開拓の村施設整備計画を策定。 ・建造物の内部展示の改修・改定に関する整備計画のための調査・検討を進めたが、計画を策定することができなかったため、次年度の課題とした。 ・北海道百年記念施設のあり方については、本庁のガバナンス体制に位置づけて検討。	・国費ならびに道費により、開拓の村の施設等の整備を当初計画どおり進め、インバウンドの集客拠点としての整備を完了した。 ・開拓の村整備計画に従い２棟の実施設計、２棟の老朽度調査を計画通り完了した。 ・建造物等の内部展示の改修・改定調査を進め検討を進めた。 ・北海道百年記念施設のあり方については、本庁のガバナンス体制に位置づけ検討を進めることとなった。 以上のことから、内部展示の改修・改定に関する整備計画の策定には至らなかったものの、北海道開拓の村にかかわる整備を大きく進めたことは評価できる。	S	・平成30年度北海道開拓の村施設整備計画による建造物の補修工事等を実施。 *地方創世拠点整備交付金を使用し、2棟の補修工事等を実施（国費1/2）。 ・平成31年度北海道開拓の村施設整備計画策定。 ・北海道開拓の村内部展示の改修・改訂について調査・検討を進め、建造物内部展示改修・改訂整備計画の策定。 ・北海道150年に向けた「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」を基に検討。	・建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施。 ・建造物の内部展示の改修計画の策定。 ・北海道150年に向けた「北海道百年記念施設」のあり方検討。 【判断数値設定】　無

中期目標・計画番号	5-1	目標値番号	8	担当	学芸部道民サービスグループ

第１期中期目標・計画項目
５　教育普及事業
（1）魅力あるイベントの充実

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	×
	9	9	0

中期目標・計画
ア　総合展示室や「はっけん広場」で気軽に参加できるイベント、子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、来館者のニーズに対応した多彩で魅力のある行事を実施する。
イ　調査研究の成果を活用した、北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができる行事を実施する。
ウ　学校団体をはじめとした各種団体による利用を促進するために、グループを対象としたレクチャーや「はっけん広場」での「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。
エ　「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに対する理解を深めてもらうための行事を実施する。
オ　イベントやプログラムの充実にあたっては、特にアイヌ文化や北海道の自然に関する事業を重点的に強化する。
イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（5年間）
イベント参加者数	16,000人

平成29年度

年度計画

・「ハイライトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。

・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。

・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。

・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、引き続き、 学校教員を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。

・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。

・利用者の満足度把握、各種事業が終了した後に運営・企画等のさらなる見直しを行ない、事業の改善・充実化につなげる。

イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	平成29年度
イベント参加者数	6,000人

目標（値）

子ども向けの魅力あるイベントの充実

【判断数値設定】　有

・ちゃれんが子どもクラブの参加者数

・総合展示場内におけるイベント参加者数（子ども／全体）

・グループレクチャー（中学生以下／全体）

項目別評価（平成29年度の実施状況）

達成状況

・総合展示室内での展示解説は、毎日14時から1時間程度で実施する「ハイライトツアー」を、計画的・定期的に実施できた。「ハンズオン」に関わる事業は、昨年度は祝日の5件にとどまったが、今年度は祝日に16件実施し、子どもからも好評であった。「ミュージアムトーク」は、昨年度は祝日の9件であったが、今年度は祝日に8件実施した。また、来館者から随時求められる質問に対しての対応は常時行なってきたが、展示を総合的に解説してほしいという来館者からの随時の要望に対しては、依然応えることができなかった。
・北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事は、ちゃれんがワークショップ、文化の日特別イベント、ちゃれんが子どもクラブを計画的・定期的に実施できた。昨年度は子ども向けのちゃれんが子どもクラブは14回開催したが、今年度は11回開催した。
・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化をより深く学ぶことができる講座・講演会は、夏季は特別展、春季・秋季・冬季には企画テーマ展に関連した自然・歴史・文化に関連した講演会や「ミュージアムカレッジ」を定期的に実施した。
・「グループレクチャー」は、各種団体の要望に応じて、予約制で、テーマを定めて実施した。「はっけんプログラム」についても、予約制で、各種団体の要望に応じて実施した。また、学校教員を対象とした「博物館教育プログラム研修会」を7月に実施し、学校団体にとってより充実した博物館利用のあり方について検討・提案を行なった。
・7月には博物館と地域の連携事業として「北海道ジオパークまつり」を、文化の日には講演会、アイヌ音楽ライブ、ハンズオンなど、複数のイベントを複合的に実施し、博物館活動への理解を促した。また、12月・1月には収蔵庫見学等を行う「バックヤードツアー」を計4回実施した。
・平成27年度以降3年間、教育普及事業を実施してきたなかで得られた利用者からの意見、企画・運営の反省点をまとめ、それらを精査のうえ、次年度のイベントプログラムを作成した。

年度計画実績（平成29年4月～平成30年1月）

イベント参加者数	13,715　人

目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月）

ちゃれんが子どもクラブの参加者数	309　人
総合展示場内におけるイベント件数（子ども／全体）	―　／　6,319　人
グループレクチャー（中学生以下／全体）	4,454　／　6,943　人

自己評価

・昨年度に作成したイベントプログラムを計画的に実施でき、今年度の目標は達成することができた。

・イベント参加者数は目標値を、大幅に上回ることができた。特別イベントや祝日の「ハンズオン」の増加などが大きく影響している。

・子ども向け事業ならびに学生から大人向けの講座・講演会などへの参加者数は概ね好調であった。

・学校教員を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施することができた。

・「バックヤードツアー」を、前年度は単発のイベントとして行なったが、今年度は計画的に、一般教育普及事業の一環として実施できた。

・利用者の満足度把握、各種事業修了後の運営・企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化にむけ、来年度事業の策定を行った。

・展示解説を要望する来館者の対応については、検討すべき課題として残っている。

評価基準

S

平成30年度

年度計画（案）

・「ハイライトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。

・子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。

・調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。

・「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、引き続き、 学校教員を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。

・「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施する。

・利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行ない、事業の改善・充実化につなげる。

・展示解説を要望する来館者の対応について検討する。

イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。

イベント参加者数	7,200人　人

目標（値）（案）

子ども向けの魅力あるイベントの充実

【判断数値設定】　有

・ちゃれんが子どもクラブの実施件数／参加者数

・グループレクチャー実施件数／参加者数（中学生以下／全体）

・はっけんプログラム実施件数／参加者数

中期目標・計画番号	5-2	目標値番号	9	担当	学芸部道民サービスグループ

第１期中期目標・計画項目
５　教育普及事業
（2）教材の充実

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

中期目標・計画
情報・通信技術を活用した機器（ICT機器）による多言語解説、ワークブックや解説書、さわれる資料や五感を刺激する資料・装置など、あらゆる利用者に対応した総合展示・企画展示の理解を促す教材の充実を図る。

点検項目集計	計	○	×
	2	1	1

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・「クイズシート」や「ちゃれんがラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発についての取組を進める。 ・より充実した多言語解説サービスのあり方について検討する。 ・６か国語対応のプロモーションビデオを、より多様な場面で活用する。 ・学校教員と連携を深め、学校教育にとってよりよい教材を開発する取組を進める。	子ども向けの教材の開発 【判断数値設定】　有 ・開発した教材数	・教材開発を進めていく前提として、博物館を学校教育で利用するための手引きとなる、学校教員向けの「北海道博物館学校利用ガイド」を開発・配布した。 ・多言語に対応したスマートフォンによる展示解説サービスを、赤れんが庁舎内の北海道博物館紹介コーナーである「北海道博物館赤れんがサテライト」ならびに特別展示室においても導入した。 ・北海道博物館のプロモーションビデオは、昨年度と同様、「北海道博物館赤れんがサテライト」のデジタルサイネージ（大型モニター）で活用した。また、講堂で行なう事業の待ち時間などでも活用するなど、活用の幅を拡げている。 ・学校教育への博物館利用について、学校教員を対象として行った「博物館教育プログラム研修会」などで得た知見をもとに、学校教育にとってよりよい教材の開発に取組んでいる。 ・北のミュージアム活性化実行委員会主催の「博物館と市民をつなぐ博物館支援組織まつり」において、北海道博物館としてブース出展し、開発途中の教材を多くの来館者に体験いただき、望ましい教材に対する意見を収集した。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） 開発した教材数　３　件 内訳：赤れんがサテライトのスマートフォン多言語展示解説 特別展示室のスマートフォン多言語展示解説 平成29年度北海道博物館学校利用ガイド	・今年度の目標は達成することができた。 ・スマートフォンを活用した多言語展示解説サービスを拡充することができた。 ・プロモーションビデオについては、活用の幅が拡がったが、より多様な場で、計画的に活用していく必要がある。 ・子ども向けの教材の開発については、素案を作成したものの、運用開始には至らなかった。 　ただし、「博物館教育プログラム研修会」をとおして得た、学校教育に結びつく教材開発について多くの意見・知見をもとに現在教材製作を進めていることは評価できる。今後も、より一層学校教員との連携を深め、学校教育にとってよりよい教材を開発・更新していく必要がある。 ・「博物館と市民をつなぐ博物館支援組織まつり」をとおして、市民から多くの意見を収集し、それがはっけん広場における「はっけんプログラム」の充実に結びついたことは、前進要素である。	A	・すでに開発・運用している「ちゃれんがラリー」などを含め、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる多様な教材の開発について検討する。 ・より充実した多言語解説サービスのあり方について検討する。 ・学校教員と連携を深め、学校教育にとってよりよい教材の開発について検討する。 ・「ちゃれんがラリー」の開発、多言語解説の充実化、プロモーションビデオの制作などが一定程度実現したなかで、障害者向けの教材開発なども含め、あらためてあらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法を策定する。	あらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法の策定 【判断数値設定】　無

中期目標・計画番号	5-3

目標値番号	10

担当	学芸部道民サービスグループ

第１期中期目標・計画項目

５　教育普及事業

(3) はっけん広場の運営

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	6	5	1

中期目標・計画

ア　「はっけん広場」の活動を充実させ、新たな発見を利用者に促すとともに、利用者同士、利用者とスタッフの交流の輪を育む。

イ　学校現場など、利用者の声も反映させながら、「はっけんキット」や「はっけんプログラム」の改良や開発、「はっけんイベント」の充実に努める。

ウ　博物館利用促進の一環として、学校など、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進する。

はっけん広場利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（5年間）
はっけん広場利用者数	100,000人

平成29年度

年度計画

・北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。

・はっけん広場をより魅力的な空間にする、「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場の充実化にむけた取組を行なう。

・はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。

・子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。

・北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を図る。

・学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への「はっけんキット」の貸出しを実施するとともに、「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組を進める。

・引き続きはっけん広場に対する利用者ニーズの把握に取組むとともに、苦情や要望に対する対応手順を明確化し、はっけん広場の改善・充実化に結びつける。

はっけん広場利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	平成29年度
はっけん広場利用者数	26,000人

目標（値）

利用者ニーズに適合させたはっけん広場の充実化

【判断数値設定】　有

・はっけん広場利用者数

・はっけん広場における学校団体などの団体利用件数

・はっけんプログラムの実施件数

・はっけんキットの貸し出し件数

項目別評価（平成29年度の実施状況）

達成状況

・「はっけん広場」の運営は、自然、歴史、アイヌ文化、生活文化などを中心に約40種類の「はっけんキット」を常備し、来館者の自発的な発見を促すための空間として運営した。

・「はっけん広場」に、より空間を明るくする看板の設置、利用者が長時間利用しやすいよう、床に座れるための床に敷くマットや畳の整備、より取り出しやすく運びやすい「はっけんキット」の箱の整備を実施した。

・「はっけんプログラム」は、「①ヒグマ」、「②アンモナイト」、「③アイヌ文化」、「④縄文文化のくらし」、「⑤昭和のくらし」、「はっけんキットを使ってみよう（対象：保育園・幼稚園）」の6つのメニューを整備のうえ、予約制で実施し、各種団体の要望に応じて実施した。

・なお、「①ヒグマ」については「博物館と市民をつなぐ博物館支援組織まつり」をとおして収集した意見をふまえ、新しいプログラムを完成させ、運用を開始することができた。

・「はっけんイベント」は、毎週土曜日・日曜日、祝日開館日に実施した。今年度のメニューとしては、4月～6月が「夜に飛ぶ動物を作ろう！」、7月～9月が「アイヌ民族のゴザ編み機でコースターを作ろう！」、10月～11月が「ふしぎな物体スライムをつくろう」、12月が「しめ縄づくり（事前申込）」、1月が「手織りの『ふかふかミニポーチ』をつくろう（事前申込）」を実施した。

・新たな「はっけんキット」の運用開始はできなかったが、「博物館と市民をつなぐ博物館支援組織まつり」で試行的に提供したキットに対する利用者からの意見をふまえ、新たなキット開発を検討している。

・館外への「はっけんキット」の貸出しは、2件にとどまったが、「博物館と市民をつなぐ博物館支援組織まつり」で試行的に提供したキットに対する利用者からの意見をふまえ、貸出し用のキット開発を検討している。また、貸出しを促進するための取組も不十分であったため、現在、貸出し促進に向けたシステム作りに着手している。

・学校教員を対象とした「博物館教育プログラム研修会」を実施し、そこで行った「はっけんキット」体験のプログラムを通じて、学校教員からの意見を収集し学校団体にとってより充実した「はっけん広場」の運営のあり方について検討を行った。

・平成27年度以降3年間、教育普及事業を実施してきたなかで得られた利用者からの意見、企画・運営の反省点をまとめ、次年度以降の運営形態を一部改変し、改善・充実を試みた。

年度計画実績（平成29年4月～平成30年1月）

はっけん広場利用者数	18,585　人

目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月）

はっけん広場における学校団体などの団体利用件数	109　件
はっけんプログラムの実施件数	200　件
はっけんキットの貸出し件数	2　件

自己評価

・はっけん広場利用者数の目標値を達成する見込みがたっていないことを重要視し、「B」評価とする。

・はっけん広場をより魅力的な空間にする、「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場の充実化に向けた取組に着手できた。ただし、さらなる「はっけんキット」の利用利便性の向上や、より効果的な空間使用のあり方を検討する必要がある。

・「はっけんプログラム」の「①ヒグマ」は、利用者からの意見を反映させて完成・運用に至ったものであり、道民とともに歩む博物館としての前進要素である。

・新たな「はっけんキット」の開発・運用に向けての、利用者からの意見を反映させた検討の実施は、前進要素である。

・「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組みは、今年度は不十分であった。

・利用者からの苦情や要望を吸収し、改善・充実にむけ、次年度以降の運営形態の一部改変を試みた。

・学校教員を対象とした「博物館教育プログラム研修会」を実施し、「はっけん広場」の運営に関する学校団体のニーズ把握を行なうことができた。

評価基準

B

平成30年度

年度計画（案）

・北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。

・はっけん広場をさらに魅力的な空間にする、「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場のさらなる充実化にむけた取組を継続して行なう。

・はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。

・子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。

・北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を図る。

・学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への「はっけんキット」の貸出しを実施するとともに、「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組を進める。

・引き続きはっけん広場に対する利用者ニーズの把握に取組むとともに、苦情や要望に対する対応手順を明確化し、はっけん広場の改善・充実化に結びつける。

・はっけん広場の魅力を高めることはもちろん、館外への広報および来館者への周知を強化するとともに、来館者をはっけん広場に導く工夫を検討する。

（※目標値の「はっけん広場利用者素」については、今年度の実績が目標値を下回る見込みであることから、昨年度以上の数値を設定せず、5年間の目標値の1年間分（100,000人÷5年=20,00人）を目標値とした）

はっけん広場利用者数の目標値は、次のとおりとする。

はっけん広場利用者数	20,000	人

目標（値）（案）

はっけん広場の利用者促進

【判断数値設定】　有

・はっけん広場利用者数

・はっけん広場における学校団体などの団体利用件数

・はっけんプログラムの実施件数

・はっけんイベント参加者数

・はっけんキットの貸出し件数

中期目標・計画番号	6	目標値番号	11	担当	学芸部社会貢献グループ

第１期中期目標・計画項目
６　ミュージアムエデュケーター機能の強化

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○	○	○	○	○

中期目標・計画
ア　一般来館者や学校団体がより効果的に学び、気づき、発見できる環境を整えるため、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
イ　道内の博物館、教育委員会、学校、各種団体などと連携し、より効果的な北海道博物館の利用促進のための取組を進める。

点検項目集計	計	○	×
	4	2	2

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。 ・より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。	ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取組み 【判断数値設定】 有 ・博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加人数 ・教員を対象とした研修会などへの参加人数	・博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図るための館内外での研修会等への参加については、第65回全国博物館大会（11月、大分市）に2名、第12回無形民俗文化財研究協議会（12月、東京都、東京文化財研究所主催）に1名、第7回ミュージアム・マネジメント研修（12月、東京都、文化庁主催）に1名、ミュージアム・マネジメント研修会（10月、羅臼町、北海道博物館協会主催）に３名が参加した。それにより、それぞれがミュージアムエデュケーターとしてのスキルを向上させ、普及行事・イベントやグループレクチャーなどの普及教育活動、企画展の企画などを一層充実させることができた。 ・教員などを対象とした研修会や意見交換会については、「北海道博物館・北海道開拓の村　博物館教育プログラム研修会」を実施、38名の参加があった。 ・「教員のための博物館の日」に参加・出展し、31名の参加者に対して当館の利用に関してレクチャー等を実施し、団体利用促進を図った。 ・また、今年度は初の試みとして「平成29年度初任段階教員研修（道教委・3年次研修）」について４校５名を受け入れ、北海道博物館の施設についてのガイダンス、学校による博物館利用に関しての意見交換、外部連携事業である「かるちゃるnet」補助業務などを実施した。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） 博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加職員数　7 人 当館が実施する教員対象の研修会への参加人数　74 人	・教育普及活動に必要な専門的知識及び技能の向上を図る研修会に参加した。 ・研修の成果は個人レベルの知識・技能の向上という形で博物館活動に活かすことができたが、これを館内で共有し、館全体のミュージアムエデュケーター機能のレベル向上につなげるのが次の課題である。 ・教員を対象にした研修会を開催し、充実したプログラムの研修を実施し、博物館活動を体験してもらうことで、今後の博物館と学校の相互理解（連携）に貢献できた。 ・昨年度に比較して、教員を対象にした研修会の参加人数が増加したのは評価できる。 ・初めて受け入れた「初任段階教員研修」については、教員の博物館への理解を促し、利用の促進につながることが期待できるため、次年度以降も続けることが望ましい。 研修会などへの参加を通じた博物館の教育普及活動に必要な職員の専門的知識及び技能の向上、教員などを対象とした研修会のいずれも昨年度以上に充実化できたため、A評価とする。	A	・館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。 ・館外での研修で得た知識および技能を館内で共有する仕組みづくりを進める。 ・より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。	ミュージアムエディケーター機能の強化に関する取り組み 【判断数値設定】 有 ・博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加職員数 ・当館が実施する教員対象の研修会への参加人数

中期目標・計画番号	8-1	目標値番号	12	担当	総務部総括グループ

第１期中期目標・計画項目
８　施設及び周辺環境の整備
（1）館内施設の整備と活用

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○				

中期目標・計画
ア　休憩スペース、キッズ・コーナー、ミュージアムショップ、カフェなど、アメニティ設備を充実させるとともに、オリジナルグッズの提案・開発により、博物館としての魅力アップにつなげる。
イ　記念ホール、講堂、グランドホールなどの一層の活用を図る。

点検項目集計	計	○	×
	8	6	2

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・ミュージアムショップ等のアメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含めた検討を進める。	・アメニティ施設の設置 ・オリジナルグッズの販売 ・施設の活用に向けた基準の策定	○ベビーカー(1台）増設したが、その他のアメニティ施設の充実に向けた検討は進んでいない。	・キッズ・コーナー等のアメニティの一層の充実に向け、検討が必要。	B	・アメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含め、内部検討を進める。 ・オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。 ・記念ホール等の活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準（仮称）」等の検討・策定を行う。	・アメニティ施設の設置 ・オリジナルグッズの販売 ・施設の活用に向けた基準の策定
・オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。		○オリジナルグッズの開発、販売。 ・独自開発数　　0個 ・総販売品目　　163種 ・今年度から追加品目　9種	・平成２９年度はオリジナルグッズの独自開発はなかったが、これまで開発したグッズや特別展の図録等のほか新たなグッズを追加・販売し、類似施設との差別化を図ることで、来館に向けた動機を高めることができた。			
・記念ホール等の活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準（仮称）」等の検討・策定を行う。		○施設の活用 【記念ホールの活用（他団体利用、イベント等）】 ・特別展「プレイボール！」開会式 （H29. 7. 8(土)　主催:北海道博物館、） ・ミュージアムコンサート　アイヌ音楽ライブ （H29.11. 3(金)　主催:北海道博物館） ・視察受入（海外、道議会等）の会場として活用 【講堂の活用（他団体利用、イベント等）】 ・日本セトロジー研究会第28回大会 （H29.6.24(土)～25(日)主催:日本ｾﾄﾛｼﾞｰ研究会） ・北海道ジオパークまつり2017 （H29. 7.15(土)　主催:北海道博物館ほか、） ・蝦夷和紙プロジェクト2017 （H29.10.14(土)主催:北の紙工房 紙びより） ・博物館と市民をつなぐ博物館支援組織まつり （H29.10.27(金)～28(土) 主催:北のﾐｭｰｼﾞｱﾑ活性化実行委員会） ○施設基準策定 講堂の利用に係る行政財産使用許可の検討に当たり、基準の策定に向けた問題点の検証を行った。	・施設の活用について、当館主催の式典やイベントなどのほか、他団体主催のイベントへの貸出や海外や議会議員等の視察受入時の会場とするなど、会議以外の利活用が図られた。 ・「博物館施設活用基準（仮称）」については、昨年度に火災報知設備の改修が終了し利用者の安全確保面での課題は解決されたことから、活用ニーズや他館の事例調査、事業優先度、事業効果、利用料金の課題把握など、策定に向けた調査・検討を進める。			
	【判断数値設定】 有					【判断数値設定】 有
	・設置した設備件数とその内訳 ・新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数 ・基準の策定と施設の活用件数					・設置した設備件数とその内訳 ・新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数 ・基準の策定と施設の活用件数

目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月）

設置した設備数		1	件
内訳	ベビーカー	1	点
新たに開発、販売したオリジナルグッズ数		0	件
基準の策定と設備の活用件数		1	件

中期目標・計画番号	8-2	目標値番号	13	担当	総務部総括グループ

第１期中期目標・計画項目
８　施設及び周辺環境の整備
（2）周辺環境の整備

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○				

中期目標・計画
ア　公共交通機関でのアクセス、野幌森林公園内施設相互のアクセスの利便性向上に向けた取組を進める。
イ　野幌森林公園の景観やイメージとの調和に配慮し、トータルデザインに基づいて公園や園内各施設のサインの統一化を図る。
ウ　野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた取組を進める。

点検項目集計	計	○	×
	4	3	1

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）と野幌森林公園管理運営協議会等の場で検討を進める。	・サインの仕様や設置費の確保、設置箇所等の検討、土地所有者への協力依頼	・サインの統一化 公園入口等に日英標記による開館・閉館案内の看板のほか、インバウンド整備事業により北海道開拓の村内に多言語表記による案内看板を整備したが、公園内各施設のサインの統一化については、設置費用の問題等もあることから検討は進んでいない。	・開拓の村における多言語案内看板の整備等により、外国人観光客の受入体制を強化することができた。 ・公園内のサインの統一化については、設置費の予算確保が最大の課題となっているが、今後、文化振興課において百年記念施設を含む周辺地域を歴史文化体感交流空間として再生するための構想を策定することとしており、こうした検討の場における議論をはじめ、土地所有者との具体的な打合せなどの検討も必要。	B	・サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）と野幌森林公園管理運営協議会等の場で検討を進める。 ・屋上スカイビューは、4月29日から9月23日までの祝日開館日（計8日間）の10:00～16:00に開放する。	・サインの仕様や設置費の確保、設置箇所等の検討、土地所有者への協力依頼
・屋上スカイビューは、4月29日から9月23日までの祝日開館日（計8日間）の10:00～16:00に開放する。	【判断数値設定】 無	・屋上スカイビューの開放 （4/29～9/23までの祝日に実施） 来場者数：04/29： 320人 05/03： 413人 05/04： 483人 05/05： 532人 07/17：悪天候のため中止 08/11： 204人 09/18：悪天候のため中止 09/23： 120人 合計：2,072人	・屋上スカイビューの開放は、ゴールデンウィーク中は天候にも恵まれ好評（GW期間中の屋上スカイビュー利用者の総合展示室利用者に占める割合は平均58%）であった。7月以降にベンチの設置を検討したが悪天候等のため断念した。			【判断数値設定】 無

中期目標・計画番号	8-3	目標値番号	14	担当	総務部総括グループ

第１期中期目標・計画項目
８　施設及び周辺環境の整備
（3）野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○				

中期目標・計画
北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努め、利用者の利便性と満足度の向上を図る。

点検項目集計	計	○	×
	2	2	0

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・ホームページの運営など一体的な広報活動をはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。	・野幌森林公園内の利便性と満足度の向上 【判断数値設定】　有 ・連絡会議の実施件数 ・一体的に行った広報の件数	【一体的広報等の実施】 ○北海道博物館ホームページを多言語化し、北海道博物館、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の各ホームページにリンクを設定。 ○指定管理者と連携し、北海道みんなの日（7月17日）に北海道博物館及び開拓の村の無料開放を実施。 ・北海道博物館（総合展示）　2,345人 ・北海道開拓の村　2,785人 ○かるちゃるnet（文化施設連絡協議会[構成：北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館ほか、野幌森林公園近隣の全10の文化施設]）において、スタンプラリーや体験イベントの開催、情報通信誌の発行。 ・スタンプラリー　H29.7.15～8.20 ・遊ぼう！学ぼう！あつべつ・えべつ H29.811 ・かるちゃるガーデン2017 H29.12.17 ○自然観察会における博物館と自然ふれあい交流館との連携事業の実施（計4回　4/22、6/18、10/7、2/24） ○施設間の交通アクセスの向上のため博物館と開拓の村間の無料シャトルバスを運行。（運行日：H29.5.3～7、H29.9.16～17※9/18台風接近のため運休 ） ○利用者満足度調査の実施 ・H29.10.25～11.10（北海道博物館60名、開拓の村50名、自然ふれあい交流館20名） ○文化振興課で取り組んでいる「百年記念施設の再生構想」策定に向けた検討状況について情報共有を図った。 【連絡会議の実施】 ・各施設の管理運営に関する連絡体制の強化と利用者サービスの向上を図るため、北海道博物館と指定管理者による北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議を原則毎月1回開催。 ・野幌森林公園の関係機関相互の情報交換及び連絡調整、自然公園における保護と利用の促進に必要な施策実施のため「野幌森林公園管理運営協議会」を設置 《構成機関》 北海道博物館、指定管理者、国、道の関係機関、市 《会議開催日》 平成29年4月14日 《内容》・平成28年度事業報告、平成29年度事業計画 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） 連絡会議の実施件数　9　件 一体的に行った広報の件数　10　件	・指定管理者との定例的な連絡会議の開催により、施設管理上の問題点の把握や対応方針の協議・検討のほか、企画展や教育普及事業など各種事業について円滑な実施が可能となっている。 ・指定管理者をはじめ関係機関と連携・協力し、施設の無料開放や関係者が一体となったイベントの実施を行うことにより、一定程度、利用者の利便性と満足度の向上につながった。 ・利用者満足度調査において、各施設のＰＲ不足をはじめ様々な意見を受けているため、引き続き、利便性・満足度向上のため連携した取組が必要。	A	・ホームページの運営など一体的な広報活動をはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。	・野幌森林公園内の利便性と満足度の向上 【判断数値設定】　有 ・連絡会議の実施件数 ・一体的に行った広報の件数

中期目標・計画番号	9-1	目標値番号	15	担当	学芸部道民サービスグループ

第１期中期目標・計画項目
９　広報
（1）広報活動の強化

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	×
	7	5	2

中期目標・計画
ア　道民の博物館への関心を広げ、利用を促進していくため、あらゆる広報媒体を活用するとともに、職員全員が積極的な広報活動を展開する。
イ　愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用することで、北海道博物館のブランドイメージの向上に役立てる。
　ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	平成31年度
ホームページのアクセス数（トップページ）	395,000件

平成29年度

年度計画

・あらゆる広報媒体を活用し、職員全員で積極的な広報活動を展開する。

・愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に当館発行の広報媒体やサインなどに活用するとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。

・北海道博物館プロモーションビデオをさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用者促進に結びつける。

・各媒体からの照会に伴う広報を継続しつつ、戦略的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。

・平成28年度要覧を刊行する。

ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	平成29年度
ホームページのアクセス数（トップページ）	190,000件

目標（値）

・利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践

【判断数値設定】　有

・広報媒体ごとの件数

・愛称およびロゴマークの活用媒体ごとの件数（愛称／ロゴマーク）

・ホームページの更新回数

・ホームページの月別アクセス数

項目別評価（平成29年度の実施状況）

達成状況

・さまざまな媒体から一定程度の広報情報に関する照会があり、その都度情報提供を行った。
・当館からの積極的な広報活動としては、道政記者クラブへの情報提供（投げ込み件数29件）など道の広報部門と連携した広報のほか、他の媒体に対する働きかけを強化した。また、「行事あんない」、「森のちゃれんがニュース」を計画的に発行・配布するとともに、特別展・企画テーマ展、イベント等のポスターやチラシの配布を行った。
・特に特別展「プレイボール！」は、館全体および指定管理者の協力を得て広報体制の強化がなされたことにより、多くの媒体で取り上げられた。
・新聞、雑誌、テレビ、ラジオで当館について掲載、放送された件数は計221件である。なお、上記以外にも、単行本に4件、ウェブに69件、その他に9件、掲載・掲示された。特に、北海道博物館開館後初の試みとして、「さっぽろ雪まつり公式ガイド」に当館の情報を掲載できた。

・愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に当館発行の広報媒体やサインなどに活用している。一方で、他機関の媒体においては、新聞で5件、雑誌で6件、外部機関のチラシで2件使用されるなど、増加傾向にある。

・プロモーションビデオは、昨年度と同様、「北海道博物館赤れんがサテライト」のデジタルサイネージで活用した。また、講堂で行なう事業の待ち時間等での活用など、活用の幅を拡げている。

・公益財団法人北海道観光振興機構および北海道旅客鉄道株式会社主催の北海道教育旅行説明会・相談会に、当館職員を北海道教育アドバイザーとして派遣し、宮城県、山形県、盛岡県、栃木県、埼玉県の旅行会社と学校教員に対し、北海道博物館のPR活動を行った。

年度計画実績（平成29年4月～平成30年1月）

ホームページのアクセス数	162,564	件

目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月）

広報媒体の件数	新聞	167	件
	雑誌	28	件
	テレビ	18	件
	ラジオ	8	件
愛称およびロゴマークの活用件数	新聞	5	件
	雑誌	6	件
	外部機関のチラシ	2	件
ホームページの更新回数		145	回
ホームページの月別アクセス数	全体	162,564	件
	4～6月	56,224	件
	7～9月	68,750	件
	10～1月	37,590	件

自己評価

・広報機能の強化は図れたが、来館者数等、数値の増加に結びつかなかったことを重要視し、「B」評価とする。

・特別展「プレイボール！」については、館全体および指定管理者で広報体制を強化した。

・あらゆる媒体への積極的かつ多面的なさらなる働きかけを継続的に進めていく必要がある。

・他機関の媒体において、愛称やロゴマークの掲載を、積極的に働きかけていく必要がある。

・プロモーションビデオの活用の幅を、より拡げていく必要がある。

・ホームページ（トップページ）へは一定程度のアクセス数があったが、目標値の達成はできなかった。

・昨年度に比べ、総合展示室の来館者が約2万人減少した原因を分析し、来年度以降は、より戦略的な広報活動の強化が必須である。

・また、海外に向けた情報発信を強化していく必要がある。

評価基準

B

平成30年度

年度計画（案）

・あらゆる広報媒体を活用し、職員全員で積極的な広報活動を展開する。

・愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に当館発行の広報媒体やサインなどに活用するとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。

・北海道博物館プロモーションビデオをさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用者促進に結びつける。

・各媒体からの照会に伴う広報を継続しつつ、戦略的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。

・海外に向けた情報発信を強化する。

・６か国語対応のプロモーションビデオについて、より多様な場面での活用をはかる。

・修学旅行を含め、学校団体の誘致をはかる。

・平成29年度要覧を刊行する。

ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。

ホームページのアクセス数（トップページ）	160,000	件

目標（値）（案）

・利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践

【判断数値設定】　有

・入館者数／うち外国人

・学校団体の利用者数／件数

・広報媒体の件数

・愛称およびロゴマークの活用件数

・ホームページのアクセス数

中期目標・計画番号	9-2	目標値番号	16	担当	学芸部道民サービスグループ

第１期中期目標・計画項目
９　広報
(2) 赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

中期目標・計画
ア　赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎）を北海道博物館のサテライト空間として活用し、来訪者を北海道博物館に誘導する展示を実現するとともに、情報発信機能の強化に努める。
イ　他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

点検項目集計	計	○	×
	4	2	2

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・平成29年３月に改善を予定している新「北海道博物館赤れんがサテライト」の空間がより魅力のある空間へと改善されたかどうか、効果検証を行なう。 ・道内博物館の情報発信機能の充実を含め、新「北海道博物館赤れんがサテライト」の運用戦略を策定し、実行する。 ・「サイエンスパーク」や「かるちゃるnet」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」において、利用者と直に接する広報活動を展開する。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への誘客へとつながっているか、定量的に把握し、改善・充実化への取組を行なう。	「北海道博物館赤れんがサテライト」の充実化 【判断数値設定】　有 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数	・平成29年3月に、赤れんが庁舎内の北海道博物館紹介コーナー（以下、「北海道博物館赤れんがサテライト」）の全面的な展示替えと、地域情報発信コーナーの一部改訂を実施した。以前に比べ、展示としての完成度は高まり、空間そのものもより魅力的なものに改善されたが、利用者へのオーディエンスリサーチなど、継続的な効果検証は行なえていない。ただし、利用者と直に接する広報活動を行なうなかでの利用者の反応や意見は、概ね好評であった。 ・4月中に今年度における「北海道博物館赤れんがサテライト」の運用戦略を策定した。 ・運用戦略に基づき、「北海道博物館赤れんがサテライト」に、道内各博物館のパンフレットを閲覧できるようにした冊子を地域ごとに作成・配置し、道内博物館に関する情報発信を継続して実施した。 ・運用戦略に基づき、北海道博物館の多言語解説サービスが充実していることを訪日外国人にPRするため、多言語に対応したスマートフォンによる展示解説サービスを、「北海道博物館赤れんがサテライト」においても導入した。このことについては、数社の新聞でも取り上げられ、北海道博物館および「赤れんがサテライト」のPRにつながった。 ・運用戦略に基づき、北海道博物館の著作物（展示図録、研究紀要、ニュースレター等）を閲覧できるコーナーを設置した。 ・運用戦略に基づき、月に１～２回程、定期的に「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新を行なった。 ・利用者と直に接する広報活動については、「サイエンスパーク」や「かるちゃるnet」など他機関との連携事業に積極的に参画した。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」において、利用者と直に接する本格的な広報活動は、札幌市内の文化施設等が特別に夜間開放を行う「カルチャーナイト」への参加など、少数にとどまった。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への誘客へとつながっているか、依然として定量的な把握はできていない。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） 「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数　2　件	・今年度の目標は、概ね達成することができた。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」をより魅力のある空間へと改善することができた。 ・4月中に今年度における「北海道博物館赤れんがサテライト」の運用戦略を策定した。 ・そのことにより「北海道博物館赤れんがサテライト」において、多言語に対応したスマートフォンによる展示解説サービスの導入、北海道博物館の著作物閲覧コーナーの設置など、新たな試みを概ね計画的に履行することができた。 ・運用戦略に基づき、「北海道博物館赤れんがサテライト」において、定期的に提供する情報の更新を行なうことができた。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」において、利用者と直に接する広報活動の計画が策定できていない。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」の充実化にともなう効果測定ができていない。	A	・定期的な提供する情報の更新、利用者と直に接する広報活動を展開などを含め、「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動を展開する。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への誘客へとつながっているか、定量的に把握するとともに、今後の赤れんが庁舎活用策についての検討を行なう。 ・「サイエンスパーク」や「かるちゃるnet」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。	「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動 【判断数値設定】　有 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新回数 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数

中期目標・計画番号	10	目標値番号	17	担当	総務部企画グループ

第１期中期目標・計画項目

１０　評価制度の活用と利用者ニーズの把握

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	5	4	1

中期目標・計画

ア　毎年度の事業実績について、あらかじめ評価項目を定め、館としての自己点検評価を行い、その結果を公表し、改善すべき点については、速やかに対処する。

イ　オーディエンス・リサーチ（利用者調査）を実施し、その結果を分析し、公表するとともに、改善すべき点については、速やかに対処する。

ウ　自己点検評価と利用者調査をふまえ、博物館協議会による外部評価を行い、その結果を公表することを通じて、より良い博物館づくりへとつなげる。

利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	平成31年度
利用者満足度	70%

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・北海道立総合博物館協議会（年２回）とアイヌ民族文化研究センター専門部会（年１回）などの円滑な実施と運営を行う。平成２９年度は、第１期中期目標・計画（平成２７～平成３１年度）の中間外部評価を実施する。 ・内部評価の実施と運営を行う。 ・アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチを実施する（４回）。 利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。 設定内容：平成29年度 利用者満足度：80%	・北海道立総合博物館協議会・専門部会の開催と運営、中間外部評価の実施と報告書作成。 ・内部評価の計画的実施。 ・オーディエンス・リサーチの実施。 【判断数値設定】無	・「北海道立総合博物館協議会」については9月12日に第1回を開催し、第1期中期計画期の中間外部評価を実施し、報告書を年度内に作成予定。11月16日にアイヌ民族文化研究センター専門部会を開催した。平成30年3月末、第2回同協議会を開催を予定している。 ・平成29年度の内部評価は、平成29年4月～平成30年1月までの事業実績をとりまとめ、平成30年2月上旬に項目別評価を実施する。2月末に内部評価委員会を開催して、内部評価を実施する。 ・総合展示・企画展示の満足度については、次のとおり5回アンケート調査を実施した。「たいへん満足」、「満足」の回答率は平均で96.7%となり、高い評価を得た。 ①企画テーマ展「夜の森　ようこそ！動物たちの世界へ」（会期：平成29年4月28日～6月4日）。 ◎企画テーマ展満足度：96.3%（回答数191件中、184件） ◎総合展示満足度：97.4%（回答数155件中、151件） ②特別展「プレイボール　北海道と野球をめぐる物語」（会期：平成29年7月8日～9月24日） ◎特別展満足度；94.8%（回答数287件中、272件） ③企画テーマ展「弥永コレクション」（会期：平成29年10月20日～11月26日） ◎企画テーマ展満足度：98.2%（回答数111件中、109件） ◎総合展示満足度：97.1%（回答数70件中、68件） ④アイヌ文化巡回展（羅臼町で実施、会期：平成29年7月22日～10月18日） ◎満足度：96.6%（回答数59件中、57件） ⑤来場者調査（平成29年8月27日実施） ◎満足度：96.7%（回答数58件中、満足57件） ・その他、平成29年8月から、学校団体を対象とした利用実態調査（「学校団体利用報告書」の提出）を実施している。 年度計画実績（平成29年4月～平成30年1月） 利用者満足度：96.7 %	・北海道立総合博物館協議会と専門部会の開催と運営については、概ね順調に進んでいるが、当初計画から全体的に遅れ、修正をはかりながら進めている。 ・内部評価の実施については、計画通り進め2月末の内部評価委員会で評価する予定である。 ・北海道博物館の満足度調査は、96.7%と非常に高い評価を得ている。 一方、オーディエンス・リサーチの実施とその方法については、北海道立総合博物館協議会から指摘も受けており、その指摘も含めた検討が必要である。	B	・北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）などの実施と運営。 ・内部評価の実施と運営。 ・アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチの実施とその方法の検討。 ・第２期中期目標・計画（平成32～36年度）の検討。 利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。 利用者満足度：80 %	・北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）の運営と実施。 ・内部評価の計画的実施。 ・オーディエンス・リサーチの実施とその検討。 ・第２期中期目標・計画（平成32～36年度）の検討。 【判断数値設定】無

中期目標・計画番号	7	目標値番号	18	担当	総務部企画グループ

第１期中期目標・計画項目
７　道民参加型組織の整備

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
	○	○	○	○

中期目標・計画
ア　ボランティア活動の導入、道民の自主的なサークル活動の支援、北海道博物館を支援する組織の創設などにより、博物館活動への道民参加を促進し、道民との連携を強化する。
イ　ミュージアムショップ、カフェなどの利用者サービス、有料イベントの企画・運営、外部資金の受入れと活用など、北海道博物館の各種活動に協働参画する支援組織の整備に取り組む。

点検項目集計	計	○	×
	3	2	1

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・第１期計画「ミュージアム・パートナー」（仮称）事業を実施する。また、同パートナーによる博物館運営等の諮問的な組織を設置する。 ・道民参加の促進に向け、ボランティア組織や北海道立総合博物館を支援する組織体制の強化を図る。 ・文化庁などからの外部資金を獲得し、全道規模の博物館ネットワーク、ミュージアム・パートナー事業などの推進と強化を図る。 ・道民参加型の事業を検討し、実施する。	・道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立。 【判断数値設定】 無	・北海道立総合博物館における支援組織・道民参加型組織（「友の会」、「ミュージアム・パートナー」、「ボランティア」（仮称））の創設にむけた検討を進め、実施計画案を策定中である。これまでの取組状況や経緯をまとめ、一般財団法人北海道歴史文化財団との協議を重ね、事業概要の検討、実施要項の検討、事業運営の検討、組織体制の検討などを進めているが、実施にいたっていない。 ・北のミュージアム活性化実行委員会が中心となって、文化庁の「文化芸術振興費補助金」（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）を獲得し、「博物館と市民をつなぐ市民参加型博物館支援活動活性化事業」を実施。 事業内容は、①７月、道内博物館における地域住民による支援組織に関するアンケート調査を実施（北海道博物館協会の協力も得て、同協会加盟館園118施設を含む290施設を対象とし、147施設から回答を得た）。②１０月２７･２８日、「博物館事業に参画する、博物館事業を主催する支援組織」を全体テーマに「博物館と市民をつなぐ博物館パートナー組織まつり」を開催。１日目、「博物館における地域住民参加型組織フォーラム」を実施。２日目、体験型イベント「北の みゅぜふぇす」を開催。本事業をとおして、博物館支援組織が抱える問題点や課題を共有し、今後のあるべき活動の姿を探り出す機会とするとともに、地域の博物館等職員・関係者と一般市民とのふれあいを介した博物館情報の発信を行った。本事業の成果を、北海道立総合博物館における支援組織・道民参加型組織の創設や、北海道の実情に即した市民参加型の博物館支援活動のモデルケース作りにつなげることが必要となる。 ・道民参加型の展示事業は、北海道化石会の協力で「アンモナイト」の展示を継続中である。	・北海道立総合博物館における支援組織・道民参加型組織づくりは、さまざまな検討を重ねてきているが、実施にいたっていない。 ・外部資金を獲得し、北海道立総合博物館における支援組織・道民参加型組織の創設や、北海道の実情に即した市民参加型の博物館支援活動のモデルケースづくりにつなげる事業を実施。アンケート調査、協働事業の開催など大きな成果を上げた。 ・道民参加型の展示事業1件のみで、今後の公募など積極的な展開が必要。	B	・第１期計画「ミュージアム・パートナー」（仮称）の事業実施。また、同パートナーによる博物館運営等の諮問的な組織を設置（館長との意見交換の場）。 ・道民参加の促進に向け、ボランティア組織や北海道立総合博物館を支援する組織体制の強化をはかる。 ・全道規模の博物館ネットワーク、ミュージアム・パートナー事業などの推進と強化をはかる。それにあたっては、文化庁などからの外部資金の獲得を目指す。 ・道民参加型の事業の検討と実施。	・道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立。 【判断数値設定】 無

中期目標・計画番号	11	目標値番号	19	担当	学芸部社会貢献グループ

第１期中期目標・計画項目
１１　博物館ネットワーク
（1）各種博物館団体との連携
（2）博物館交流の促進

プライオリティ	H27	H28	H29	H30	H31
（1）各種博物館団体との連携					
（2）博物館交流の促進	○	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	×
	9	6	3

中期目標・計画
（1）各種博物館団体との連携
ア　日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、全国博物館の最新動向に関する情報を入手し、道内の加盟館へと伝える一方、北海道からの要望をとりまとめるなど、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。
イ　北海道博物館協会との連携により、地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援するなど、中核的博物館としての役割を果たし、北海道の博物館活動の活性化につなげる。
（2）博物館交流の促進
ア　地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進させ、北海道再発見のための知のネットワークづくりへとつなげる。
イ　北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象に、博物館学系の知識や技術を普及する研修会を実施する。
ウ　地域の博物館や学校などのニーズに応じ、一般、学生、教員などを対象にした出前講座を実施する。
道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	5年間
道内市町村等との連携・協力件数	200件

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
（1）各種博物館団体との連携 ・日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。 ・北海道博物館協会事務局を通じて、地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。 （2）博物館交流の促進 ・地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。 ・北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。 ・連携・協力に関して、地域の博物館や学校などのニーズの把握に努める。 道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。 設定内容：道内市町村等との連携・協力件数 平成29年度：40件	質の高い連携による、企業や民間団体、図書館、博物館、自治体等との連携・協力事業の実施 【判断数値設定】無	（1）各種博物館団体との連携 ・日本博物館協会の北海道支部として、表彰候補者の募集および各種アンケートへの回答など北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たした。 ・北海道博物館協会の事務局を担い、北海道博物館大会（7月）、ミュージアム・マネージメント研修会（10月）、役員会（3回）などの開催、『道博協ニュース』の刊行（3回）、道内地域ブロック別や館種別の組織の活動の支援を行うなど、北海道の中核的博物館としての役割を果たした。 （2）博物館交流の促進 【市民・他団体・企業等との連携・協力】 ・北のミュージアム活性化実行委員会と連携した「博物館支援組織まつり」の共催。 ・北海道新聞社と連携し、展示観覧と三笠市でのジオツアーを内容として実施した「まなぶんサマースクール（8月）」の共催。 ・イオン北海道と連携し、特別展等のPRを実施。 ・CISEネットワークなど他機関が主宰するネットワークへの参画およびイベントの実施。 ・「自然史レガシー継承・発信実行委員会」への参画。 ・カルチャーナイト、サイエンスパーク、「教員のための博物館の日in札幌」、ジオ・フェスティバルin Sapporoなどの他組織主催イベントへの参加・出展。 【学会及び研究会との連携・協力】 日本セトロジー研究会第28回大会の共催実施。 【高校との連携】 ・札幌啓成高等学校のSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）活動への協力、「啓成SSH in 光の広場」の共催・出展、及び高校生の解説活動指導等の協力。 年度計画実績（平成29年4月～平成30年1月） 道内市町村等との連携・協力件数　36　件	（1） ・北海道博物館協会に関しては、大会および研修会の開催ほか、事務局業務を通じて北海道の中核的博物館としての役割を十分に果たすことができた。 （2） ・協力案件処理のルールを徹底できたことで、実施判断・決定が迅速かつ的確になるとともに、当館が受諾する意義や留意点を明確に示す重要性について、職員の意識を向上できた。 ・外部組織・機関との交流・連携・協力については、さまざまな形態を合計すると36件であり、昨年度実績（34件）を上回る件数となった。 各種博物館団体との連携、各種博物館交流とも着実に実施し、目標値の9割を達成したため、A評価とする。	A	（1）各種博物館団体との連携 ・日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。 ・北海道博物館協会事務局を通じて、地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。 （2）博物館交流の促進 ・地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。 ・北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。 ・連携・協力に関して、地域の博物館や学校などのニーズの把握に努める。 道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。 道内市町村等との連携・協力件数　40　件	質の高い連携による、企業や民間団体、図書館、博物館、自治体等との連携・協力事業の実施 【判断数値設定】無

中期目標・計画番号	12-2～3

目標値番号	20

担当	学芸部社会貢献グループ

第１期中期目標・計画項目
１２　情報発信
(2) ＩＣＴなどを活用した情報発信機能の強化
(3)道民の「知りたい」気持ちへの支援

プライオリティ	H27	H28	H29	H30	H31
(2) ＩＣＴなどを活用した情報発信機能の強化					
(3)道民の「知りたい」気持ちへの支援	○	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	×
	14	10	4

中期目標・計画
(2) ＩＣＴなどを活用した情報発信機能の強化
ア　北海道博物館及び道内博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータを整備し、ＩＣＴを活用した、関係機関とのより効果的なネットワークを構築する。
イ　ＩＣＴなどを活用した多様な媒体により、北海道博物館及び道内博物館の諸情報を道民が利用しやすい形で発信する。
(3)道民の「知りたい」気持ちへの支援
ア　北海道の自然・歴史・文化に関わる図書、博物館刊行物、視聴覚資料などを収集し、図書室の充実を図る。
イ　収蔵資料、図書、視聴覚資料などの閲覧スペースを整備し、閲覧・複写などの各種サービスを充実させる。
ウ　北海道の自然・歴史・文化に関わる道民の身近な相談窓口として、利用者からのアクセスツールを整備し、レファレンスや学習支援の機能を強化する。
　来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	5年間
写真の提供件数	350件
レファレンス件数	4,000件

設定内容	5年間
アンケート、その他の利用件数	500件

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
（2）ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備作業を引き続き進め、インターネット上での公開に向けた取組を進める。 ・ウェブサイトおよびツイッターを運営し、館内の多様な情報を発信する。 ・館内のICTの充実・活用を包括的かつ一元的に検討するために今年度発足予定のワーキングチームと連携しながらソーシャルメディアの一層の活用を進め、多様な媒体による北海道博物館の諸情報の発信力を強化する。 （3）道民の「知りたい」気持ちへの支援 ・北海道の自然・歴史・文化に関わる道民向け蔵書の充実化を進め、図書室での利用を促進する。 ・図書室の基本的な機能をさらに充実させるとともに、一般道民向けの蔵書の充実、展示等と連動した開架コーナーの更新など、図書室利用の促進に繋がる取り組みを進める。 ・昨年度から開始したレファレンスの集計記録を着実に実施するとともに、1年の実績を踏まえたマニュアルの見直しも図る。また、レファレンス内容について館内で情報を共有化する仕組みを作る取り組みを進める。 来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。 設定内容 / 平成29年度 写真の提供件数 / 70件 レファレンス件数 / 800件 アンケート、その他の利用件数 / 100件	・図書室の蔵書の充実及び利用促進 ・レファレンスサービスの記録化及び活用 【判断数値設定】 有 ・写真の提供件数 ・レファレンス件数 ・アンケートその他の利用件数	（2）ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備を進めた。 ・ウェブサイトの保守に合わせてレイアウト等を一部変更し、より見やすく、わかりやすくなるよう改善を図った。 ・ツイッターへは240件の投稿を行った。特に、企画テーマ展に合わせたお勧め資料紹介など、学芸員の生の声を届けることで館の事業への注目度を高めるような工夫を前年度に引き続き、重ねることで一層の活用を図り、情報の発信力を強化した。結果として、2,560のリツイートと4,214の「いいね」があり、フォロワー数は１月末現在で1,949であった。 ・ICTワーキングチームについては、あるべき姿について検討を行い、設置要項案を作成し、部内で調整中である。 （3）道民の「知りたい」気持ちへの支援 ・北海道の自然・歴史・文化に関わる図書や博物館刊行物等を収集し、開架部分で閲覧可能な道民向け蔵書の充実を図った。 ・企画展等に関連する図書を配置した特設コーナーを設け、図書室利用の促進に繋がる取り組みを引き続き進めた。 ・図書整理やデータの入力などの作業を進めた。 ・図書室カウンターの無人化に伴い機材整備や体制構築等を４～６月にかけて実施、運営体制を軌道に乗せた。 ・書庫の収容力が限界に達していることから、利用見込みのない図書類を除籍するための方針を定めた。第一弾として約4,200冊を除籍した。 ・図書管理用データベースシステムを引き続き運用した。職員用検索・貸出については年度内に稼働予定である。 ・レファレンスについては、前年度に構築した研究グループごとの件数や内容を把握できる体制を運用することで、347件を記録できた。 年度計画実績（平成29年4月～平成30年1月） 写真の提供件数 / 97 / 件 レファレンス件数 / 347 / 件 アンケート、その他の利用件数 / 24 / 件	（2） ・ウェブサイトでは、一層的確な情報提供ができるようになった。 ・ツイッターは多くの投稿を行い、より魅力的な情報を発信した。 ・ICTワーキングチームは検討に留まった。 （3） ・開架コーナーの一層の充実を図れた。 ・図書貸出システムの稼働を急ぐ必要がある。 ・図書類の体系的な除籍に先鞭をつけたのは評価できる。 ・レファレンス集計体制が一定程度定着し昨年度実績の159件から大幅に増えた。しかし記録票記入率はまだ低いと考えられ、記入を繰り返し呼びかける必要がある。 ・記録したレファレンスを共有化・活用し、利用者へのサービスを向上させるための仕組み作りを進める必要がある。 ・アンケート他、外部からの照会・調査については、件数は目標値より少ないが確実に回答した。 全体としては達成度が高いものの課題が残る項目もあるため、B評価とする。	B	（2）ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備作業を引き続き進め、インターネット上での公開に向けた取組を進める。 ・ウェブサイトおよびツイッターを運営し、館内の多様な情報を発信する。 ・ソーシャルメディアについては利用者の反応の分析を行い、発信の仕方を見直すことで情報発信力の一層の強化につなげる。 ・ICTワーキングチームについては、設置要項案を元に部内検討および館内調整を行い、早期発足を目指す。 （3）道民の「知りたい」気持ちへの支援 ・北海道の自然・歴史・文化に関わる道民向け蔵書の充実化を進め、図書室での利用を促進する。 ・図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し、一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備する。 ・図書の収集・除籍方針を定め、利用見込みのない図書の除籍を進めて書庫利用の効率化を図る。 ・レファレンスの集計記録を着実に実施するとともに、記録の実施を呼びかけ、記録率の向上を目指す。また、レファレンス内容について館内で情報を共有化する仕組みを作る取り組みを引き続き進める。 来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。 写真の提供件数 / 70 / 件 レファレンス件数 / 800 / 件 アンケート、その他の利用件数 / 100 / 件	・図書室の蔵書の充実及び利用促進 ・レファレンスサービスの記録化及び活用 【判断数値設定】 有 ・写真の提供件数 ・レファレンス件数 ・アンケートその他の利用件数 ※なお、アンケートなど外部からの依頼による照会・調査の件数に関しては、純粋に依頼元の都合で決まるため当館の情報発信にかかる目標としてはそぐわないと考える。目標値から外すのが望ましい。

中期目標・計画番号	13-1～3

目標値番号	21

担当	学芸部社会貢献グループ

第１期中期目標・計画項目
１３　人材育成機能の強化
（1）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ
（2）外来研究員の受入
（3）派遣研修

プライオリティ	H27	H28	H29	H30	H31
（1）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ					
（2）外来研究員の受入					
（3）派遣研修					

中期目標・計画
（1）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ
ア　博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れるとともに、大学などと連携し、より効果的な実習（研修）プログラムを構築する。
イ　教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などと連携し、授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。
（2）外来研究員の受入
外部研究者や大学院生などを受け入れ、当館資料を活用した北海道の自然・歴史・文化に関する研究の機会を提供する。
（3）派遣研修
外部機関が開催する博物館学系研修会や技術研修会に当館職員を参加させ、先端の知識と技術を集積する。

点検項目集計	計	○	×
	6	5	1

平成29年度

年度計画

（１）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ
・博物館実習（館務実習）を夏季に１回実施する。

・博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。

・博物館実習の内容についての効果測定を行い、その結果を反映させたより効果的な実習プログラムの構築に向けた取組を進める。

・教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

（２）　外来研究員の受入
・外部研究者や大学院生などの外来研究員等としての受入に関する規定類の整備など体制構築を行う。

（３）派遣研修
・外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会等に当館職員を参加させる。

目標（値）

・博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成

・博物館学系領域の充実化

【判断数値設定】　有

・博物館実習の受け入れ件数

・インターンシップの受け入れ件数

・博物館学系研修会や技術研修会への参加件数

項目別評価（平成29年度の実施状況）

達成状況

（１）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ
・博物館実習（館務実習）については、８月22日～9月1日（実質10日間）の日程で実施した。定員20名のところ最終的に16名（北海道大学、札幌学院大学、東海大学ほか）の受講があった。体験学習素材準備、オーディエンス・リサーチ、野外観察プログラム製作、展示実習等、博物館の活動のほぼ全体にわたって体験できるカリキュラムとすることができた。なお、オーディエンス・リサーチの結果は、『北海道博物館研究紀要』第3号にも掲載する予定であり、今後の館活動を考えるための基礎資料にもなった。
・博物館実習（見学実習）については、４件（北海道・同大学院、北海道教育大、北翔大ほか、計４３名）を受け入れた。
・インターンシップについては、8件（札幌市立平岸高校、同旭丘高校、興部町沙留中学校ほか、計89人）を受け入れ、博物館の活動および学芸員の仕事のうち、普及イベントの準備などを体験してもらった。
・博物館実習の内容の効果測定については、実習中の日誌や実習後のレポートを参考としつつ、効果を数値で示す手段や方法に関する検討を行った。
・教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、職員を大学の非常勤講師や講演の講師として派遣した。
（２）外来研究員の受入
・他機関からの人事交流の打診を受け、北海道における受入制度や想定される受入体制等に関して検討を開始した。
（３）派遣研修
・北海道博物館協会主催のミュージアム・マネジメント研修や文化庁が主催するミュージアム・マネジメント研修などに当館の職員を派遣した。

目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月）

博物館実習の受入れ件数		総数	5	件
			59	人
	内訳	館務実習	1	件
			16	人
		見学実習	4	件
			43	人
インターンシップの受入れ件数			8	件
			89	人
博物館学系研修会や技術研修会への参加件数			4	件
			7	人

自己評価

（１）
・博物館実習（館務実習）については、充実したプログラムで行うことができ、博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成に貢献できた。
・博物館実習（見学実習）およびインターンシップについては積極的に受け入れ、人材育成に貢献できた。
・教員を対象とした研修については、博物館活動を体験してもらうことで、今後の博物館と学校の相互理解（連携）に貢献できた。

（２）外来研究員の受入
・想定される受入体制等に関して検討を実施できたのは前進である。

（３）派遣研修
・ミュージアムマネジメントに係る研修に当館職員を派遣し、博物館職員としての資質向上をはかることができた。

上記（２）については検討に留まったものの、（１）（３）に関する実績値は前年度を超える成果を上げることができたため、A評価とする。

評価基準

A

平成30年度

年度計画（案）

（１）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ
・博物館実習（館務実習）を夏季に１回実施する。

・博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。

・教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

（２）外来研究員の受入
・引き続き外部研究者や大学院生などの外来研究員等としての受入に関する規定類の整備などの検討や他館の現況調査などを行い、制度の枠組みの立案をはかる。

（３）派遣研修
・外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会等に当館職員を参加させる。

目標（値）（案）

・博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成

・博物館学系領域の充実化

【判断数値設定】　有

・博物館実習の受け入れ件数

・インターンシップの受け入れ件数

・博物館学系研修会や技術研修会への参加件数

中期目標・計画番号	14-1～4	目標値番号	22	担当	学芸部社会貢献グループ

第１期中期目標・計画項目
１４　研究成果の発信と社会貢献
（1）学術刊行物などの刊行　（2）学会への発信　（3）職員の対外貢献　（4）外部機関との事業連携

プライオリティ	H27	H28	H29	H30	H31
（1）～（4）					

点検項目集計	計	○	×
	9	9	0

中期目標・計画
（1）学術刊行物などの刊行
ア　研究成果を広く伝えるため、研究紀要や研究報告書などを刊行する。
イ　北海道の自然・歴史・文化の学習や理解促進のために、研究成果をわかりやすくまとめた冊子などを刊行する。
ウ　企画展示の開催に合わせて、来館者の理解を深め、学術的意義を広く知らせるために展示図録や解説用冊子を刊行する。
（2）学会への発信
各種学会での発表や学術雑誌への投稿などにより、北海道博物館の研究成果を積極的に発信する。
（3）職員の対外貢献
講演、各種委員への就任、共同研究への参画、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力し、社会貢献に努める。
（4）外部機関との事業連携
民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。
社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

設定内容			5年間
新聞・報道対応の件数	招待講演の件数	各種委員・共同研究員等委嘱の件数	計900件
学会発表の件数	学術雑誌等への寄稿の件数	その他の件数	

平成29年度

年度計画

（1）学術刊行物等の刊行
・『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第３号を刊行する。
・研究紀要のウェブサイト上での公開を進めるとともに、旧開拓記念館・旧アイヌ民族文化研究センターでの学術刊行物等についても遡及して著作権等の処理を進め、可能なものから順次、電子媒体での公開を進める。
・特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。
・企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。

（2）学会への発信
・学芸職員、研究職員による積極的な学会等での発表を促進するとともに、研究グループないし北海道博物館としての研究成果発信のあり方や方法について検討を進める。

（3）職員による対外貢献
・各種委員や非常勤講師等への就任、共同研究等への参画、講演会・講座等への講師の派遣、その他専門的知見の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。

（4）外部機関との事業連携
・引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。

社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	平成29年度
新聞・報道対応の件数	計180件
学会発表の件数	
学術雑誌等への寄稿の件数	
招待講演の件数	
各種委員・共同研究員等委嘱の件数	
その他の件数	

目標（値）

・研究成果の多様な発信

【判断数値設定】　無

項目別評価（平成29年度の実施状況）

達成状況

（1）学術刊行物の刊行
・『北海道博物館研究紀要』（以下『博紀要』）『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』（以下『セ紀要』）第3号の刊行（平成30年3月）を進めた。『博紀要』では外部査読を初めて実施した。
・『博紀要』『セ紀要』第2号をウェブサイト上で公開した。
・旧開拓記念館の学術刊行物等について、必要に応じて著作権等の処理を行い順次公開することとしていたが、進捗しなかった。
・特別展の開催に合わせ展示図録を刊行した（平成29年7月）。
・企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行した（平成29年4月・10月・平成30年2月）。
（2）学会への発信
・学芸職員、研究職員による研究成果の館外への公開・発信については、学会や研究会等での発表が18件、学術雑誌等への執筆が41件（当館の研究紀要への投稿20件を含む）と、計59件行った。
（3）職員の対外貢献
・以下のとおり、様々な形態で積極的な対外貢献を行った。
　・招待講演の件数（５１件）
　・各種委員・共同研究員等委嘱の件数（３９件）
　・その他調査協力等、専門的知見の提供（１８件）
（4）外部機関との事業連携
・特別展「プレイボール！－北海道と野球をめぐる物語－」の開催に際し、多くの民間企業を含む外部機関・組織との連携・協力を行った。
・「かるちゃるnet」等多くの外部機関主催のイベントに参加した。

年度計画実績（平成29年4月～平成30年1月）

合計	451	件
内訳		
新聞・報道対応の件数	304	件
学会発表の件数	18	件
学術雑誌等への寄稿の件数	21	件
招待講演の件数	51	件
各種委員・共同研究員等委嘱の件数	39	件
その他の件数	18	件

自己評価

（1）
・両研究紀要の第3号の刊行準備を予定どおり進めることができた。『博紀要』では外部査読を初めて運用することができた。ウェブ公開用のPDFの画像精度を修正し、より利用しやすくなった。
・特別展図録は、正確さと読みやすさを意識して作成・刊行し好評を得た。
・企画テーマ展のパンフレットを予定通り刊行し研究成果の普及を図ることができた。
（2）
・昨年度よりも学術雑誌への寄稿の件数だけが半減した。取りまとめに必要な時間の確保と計画的な取組みに向けた働きかけが課題である。
（3）
・対外貢献については昨年度に引き続き目標を上回ることができた。
（4）
・外部機関との事業連携を積極的に推進した。

実績数値全体では目標を大きく上回っているものの、上記（2）は前年度より半減したためA評価とする。

評価基準

A

平成30年度

年度計画（案）

（1）学術刊行物等の刊行
・『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第４号を刊行する。
・第4号をウェブサイト上で公開するとともに、旧開拓記念館・旧アイヌ民族文化研究センターでの学術刊行物等についても、必要に応じて著作権等の処理を進め、可能なものから順次公開を進める。
・特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。
・企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。
（2）学会への発信
・学芸職員による積極的な学会等での発表を促進するとともに、研究グループないし北海道博物館としての研究成果発信のあり方や方法について検討を進める。
（3）職員による対外貢献
・各種委員や非常勤講師等への就任、共同研究等への参画、講演会・講座等への講師の派遣、その他専門的知見の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。
（4）外部機関との事業連携
・引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。

社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

新聞・報道対応の件数	計	180	件
学会発表の件数			
学術雑誌等への寄稿の件数			
招待講演の件数			
各種委員・共同研究員等委嘱の件数			
その他の件数			

目標（値）（案）

・研究成果の多様な発信

【判断数値設定】　無

中期目標・計画番号	14-5	目標値番号	23	担当	総務部企画グループ

第１期中期目標・計画項目
14　研究成果の発信と社会貢献
(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○	○	○	○	○

中期目標・計画
ア　北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献する。
イ　道の総合計画「ほっかいどう未来創造プラン」などとリンクし、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究を推進する。
ウ　多民族・多文化共生社会、人と自然との調和のとれた社会など、北海道であるからこそ率先して目指すべき社会のあり方についてのビジョンを提言する。

点検項目集計	計	○	×
		3	3	0

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・政策事業の推進と実施を積極的に行い、中核的な博物館としての役割を担う。 ・北海道150年事業への積極的なアプローチを行う。（特に、特別展「松浦武四郎」（仮）展の開催に向けた準備、「北海道百年記念施設」の今後の整備等について、検討を具体化する）。 ・北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組を進める。	・道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制づくり 【判断数値設定】 無	・平成27 年「新・北海道ビジョン推進方針」の政策に示されている【政策82】「北海道ミュージアム構想」の推進、【政策83】「北海道150年事業」の展開、【政策84】「赤れんが庁舎の機能向上」と連動した取組を進めた。 ・「北海道150年事業」の関連事業として、平成30年度特別展「幕末維新を生きた旅の巨人―松浦武四郎」の開催に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、関連機関との連携などの開催準備を進めた。また、総合政策部政策局北海道150年事業室と連携して、松浦武四郎関連の取組に対する専門的知識の提供などを行った。 ・「歴史文化施設におけるインバウンド交流施設整備事業」（北海道開拓の村）の実施など、北海道の中核的博物館としての機能を強化するための取り組みを進めた。 ・北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、道費による研究プロジェクト18課題を実施し、地域への研究成果の貢献などを進めている。『北海道博物館研究紀要』ならびに『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』3号を年度内に刊行予定である。	・「北海道150年事業」実施に向けた検討、百年記念施設のあり方、赤レンガ庁舎の機能向上とあり方について検討に加わり進めた。 ・平成30年度に北海道博物館で開催する特別展「幕末維新を生きた旅の巨人-松浦武四郎」開催に向けた準備、関係機関との調整など概ね順調に進んでいる。 ・開拓の村のインバウンド交流施設整備事業は、旧菊田家農家住宅、旧小川家酪農畜舎の修復・展示ブース整備、案内看板等の多言語化など計画にそって進めた。 ・各研究プロジェクトは、計画にそって進められ、研究成果や地域への貢献を含め評価できる。	A	・政策事業の推進と実施を積極的に行い、中核的な博物館としての役割を担う。 ・北海道150年事業の実施 ①特別展「幕末維新を生きた旅の巨人―松浦武四郎」（仮）の開催。 ②「北海道百年記念施設」の今後の整備についての政策的な検討。 ・第２期中期目標・計画（平成32～36年度）の検討。 ・北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組を進める。	・道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制づくり 【判断数値設定】 無

中期目標・計画番号		目標値番号	24	担当	総務部総括グループ

外部評価項目
ガバナンス体制の育成
1．館内の意思決定機関の育成

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31

備考
平成27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、中期目標・計画とは別に設定した項目である。

点検項目集計	計	○	×
	9	9	0

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・運営会議のスムーズな運営と意思決定機関としての能力をより高めるため、各グループ間の事前調整はもとより、特に資料のスリム化、事前配付を徹底する。	・課題の共有と解決	【運営会議のスムースな運営】 ・定期的な開催により課題などの共有化を図った。会議資料について極力スリム化を図るよう努めたが事前配付の徹底は未達成。 《会議の開催回数》 平成29年度　34回（1月末現在）※参考：平成28同時期34回 《議題の件数》 協議事項　19件、報告事項等　156件（1月末現在）	・必要により臨時の運営会議も開催するなど館内の意思決定の迅速化や各グループの懸案事項や事業の進捗状況の把握、館内における情報共有を行うことができた。 ・議事のうち重要案件等について、本庁での検討依頼や情報提供等を適宜行うなど文化振興課との連携を強化することができた。 ・本庁からの情報提供を受けるなどし、博物館に関連する道議会議論などについて館内で情報を共有することができた。 ・議事内容は「報告事項」が多い傾向にあるため、懸案事項等に係る協議など、意思決定機関としての更なる機能向上を図ることが必要である。	B	・意思決定機関としての機能をより高めるため、懸案事項等の常時把握などにより協議事項の洗い出しを行うとともに、運営会議のスムーズな運営のため特に資料のスリム化等を徹底する。 ・博物館の課題等について、本庁と情報を共有し適切な連携のもと解決を図るため、定期的な打合せを行うなどして文化振興課との連携を強化する。	・課題の共有と解決
・事業の着実な推進を図るため、懸案事項と本評価との整合性を図りつつ、優先的に取り組む事業を明確化し、予算要求に反映させるとともに、管理職による事業の進行管理を強化する。	【判断数値設定】　無	【優先順位の明確化と事業の進捗管理】 ・運営会議等において、当該年度の懸案事項の共有化を図るとともに改題解決に向けて本庁と協議し予算の確保や組織体制の整備を図った。 《平成30年度予算の確保》 ・150年事業の一環として特別展「松浦武四郎展」の開催 予算額　25,326千円　　※北海道未来創生事業 ・民族共生象徴空間開設に向けたアイヌ文化情報発信事業 予算額　10,000千円　　※北海道未来創生事業 ・「北海道開拓の村」の歴史的建造物の改修 予算額　100,000千円　※地方創生交付金の活用 ・省エネ照明設備導入及び森林公園施設整備 予算額　120,000千円　※長寿命化改修等 《平成29.4組織体制の整備》 ・学芸部門の監督責任者として「学芸副館長」を配置 ・博物館における「北海道150年事業」の円滑な実施のため企画グループにサブリーダーとして学芸主幹を配置	・懸案であった学芸副館長の配置等、必要な体制整備を図ったほか、重要かつ優先的に取り組む事業について、運営会議等に諮りながら予算等を確保するなどして実施するとともに、必要な経費について本庁と協議し翌年度予算を確保した。 ・内部点検評価の結果と連動した懸案事項の整理方法について今後検討する必要がある。		・事業の着実な推進を図るため、より実効的な懸案事項の整理方法を検討し、重要かつ優先的に取り組む事業について予算要求へつなげるとともに、運営会議の場等における進捗管理を適切に行う。	【判断数値設定】　無
・博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関へのPRを図るため、視察対応の一層の充実が必要であり、より柔軟な受け入れ体制の整備を進める。		【視察対応】 ・博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関に対するPRを目的に、総務部を窓口として、教育機関や各種団体、海外、国、他府県、道内外市町村の行政機関や議会議員等による視察の受入体制を整備した。 《視察の受入件数》 平成29年度　68件、 545人（1月末現在） ※参考：平成28年度同時期　74件、　715人	・受入窓口を一本化することで、視察希望者の的確な対応や円滑な受入ができた。また、各専門分野の学芸員が解説することにより、視察者のニーズに対応したきめの細かい解説をすることができた。 今後も、担当学芸員不在時に対応できるよう複数の解説者を養成することが必要である。		・博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関へのPRを図るため、視察対応の一層の充実が必要であり、より柔軟な受け入れ体制の整備を進める。	

中期目標・計画番号		目標値番号	25	担当	環境生活部文化・スポーツ局文化振興課

外部評価項目
ガバナンス態勢の育成
3．道庁の支援体制の育成

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31

備考
平成27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、中期目標・計画とは別に設定した項目である。

点検項目集計	計	○	×
	5	5	0

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと、解決を図る。	・課題の共有と解決 【判断数値設定】 無	・「北海道博物館赤れんがサテライト」に関する事項 「北海道博物館赤れんがサテライト」の展示については、より博物館への誘導力のある空間とするため、博物館に改善策の提案等を行っているが、今年度は、本館で導入している外国語対応スマホアプリ「ポケット学芸員」を導入するとともに、デジタルサイネージでは、博物館のプロモーション動画の多言語版を上映するなど、インバウンド対応の強化が図られた。 また、総合展示だけでなく、特別展や企画展を紹介する展示も随時実施し、こちらにも上記スマホアプリを導入し、同展示への誘客が図られた。 ・博物館の総合展示及び特別展示等に関する事項 入場者の増加を図るため、総合展示については、一部展示替え時に、また、特別展示や企画展、博物館主催イベントについては、開催期間前に博物館と情報共有し、本庁において報道発表を行った。 ・北海道開拓の村の整備に関する事項 北海道開拓の村へのインバウンドの増加を図り、村の収入増につなげるため、国の地域創生拠点整備交付金を活用し、立入禁止としていた旧小川家酪農畜舎や旧菊田家農家住宅、馬車鉄道等の改修を行った。また、現在、歴史的建造物の保存・再生に向けた研修拠点として民間団体等に活用してもらうため、博物館と情報共有しながら、同交付金を活用した旧龍雲寺、旧若狭家たたみ倉の改修工事の予算（平成２９年度予算（３０年度に繰越））を要求中である。 ・百年記念施設のあり方検討に関する事項 北海道１５０年を迎えるにあたり、道民の貴重な財産である百年記念施設を将来に向けて、どのように後世に伝えていくことが相応しいのかを、学識経験者等から幅広く意見を聴取するため、「北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会」を開催し、本懇談会での意見を踏まえ、博物館と情報を共有しつつ、今後の議論の方向性を示す「百年記念施設の継承と活用に関する考え方」をとりまとめた。 ・点検項目（No.173、経済団体や観光団体等と連携した広報活動）に関する事項 広報活動については、広報広聴課を通じて各種広報媒体を活用した広報を実施し、適宜経済団体や観光団体へも周知されているところである。 また、本年度は、同課を通じた市内商業施設等でのイベント、国際課を通じたロシアでの交流イベント等への参加について調整を行っている。 本庁は、広報広聴課や各部間との調整の上、広報活動を実施しており、博物館や指定管理者においても、特別展での広報や共通チケットの販売など観光協会や民間企業と連携した広報や取組を行っているため、評価を○としたものである。	・「北海道博物館赤れんがサテライト」については、より効果的に博物館への誘導がなされるよう、博物館に改善策の提案等を行ってきたことは評価できる。 ・博物館の総合展示及び特別展示、各イベントについては、博物館と情報共有し、積極的に報道発表を行い、入場者の増が図られたことは評価できる。 ・博物館や庁内担当部署と連携し、国の交付金を活用して、永らく立入禁止が続いていた、旧小川家酪農畜舎や吊り橋、鉄骨で支えている状態の旧菊田家農家住宅、老朽化が進む馬車鉄道の軌道等を改修するとともに、インバウンドの増加に向けた体験ブースの新設、村内看板の多言語化を実施できたことは評価できる。 ・「百年記念施設の継承と活用に関する考え方」のとりまとめに当たっては、博物館と情報を共有しながら手続を進めることができたことは評価できる。 今後は、意見交換の実施や庁内検討会議への参画を博物館に要請し、より密接な連携のもと再生構想の策定を進めたい。	A	・博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと、解決を図る。	・課題の共有と解決 【判断数値設定】 無

研究センター事業推進方針番号	1-1	研究センター目標値番号	1	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	2-1

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31　補訂版】
1　展示事業
1）総合展示の運営

北海道博物館中期目標・計画項目
2　展示
（1）総合展示室の運営

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31　補訂版】（縮約）
・アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な機関として、学術的な信頼性の高い研究成果に基づく、わかりやすく・親しみやすい展示を行うとともに、不断にその内容の充実を図り、アイヌ文化の理解促進に努める。
1）総合展示の運営
・総合展示の入替えなどを継続的に実施し、最新の研究成果や当館が所蔵するさまざまな資料を紹介する。
　①クローズアップ展示の運営　　②「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用　　③展示資料の入替え

北海道博物館中期目標・計画
ア　最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な入替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。
イ　総合展示の展示資料について、道民及び関連機関に知らせるため、その全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。
ウ　総合展示のメンテナンスに努める。

点検項目集計	計	○	×
	7	6	1

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
以下の３点について、所管グループとの連携の下、実施する。 ①　クローズアップ展示の運用 ・第２テーマのクローズアップ展示３、４について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画を策定し、計画に基づく入れ替えを実施する。 ・他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。 ・展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。 ②　「アイヌ文化Ｑ＆Ａ」コーナーの運用 ・更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。 ③　展示資料の定期的な入替え ・コーナー及び資料の種別に応じた入れ替え計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入れ替えを実施する。 ・ｉＰａｄを利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入れ替えと連動した画像の追加・更新を実施する。	①　クローズアップ展示３、４の計画策定 　計画には多様な分野・テーマを盛り込むよう留意 ②　アイヌ文化Q&Aの定期的な追加・更新実施 ③　総合展示資料の入れ替え基準を定め、入れ替え計画策定 【判断数値設定】　有 ①　クローズアップ展示３，４とも：各３回 ②　アイヌ文化Q&A：更新年間４回（質問８件） ③　総合展示資料入れ替え 衣服及び関連資：４回 装身具・祭具等：１回 ノート等：１回	①　クローズアップ展示の運用 ・総合展示第２テーマ「アイヌ文化の世界」におけるクローズアップ展示3、4で計６回の展示を実施した。 ・シリーズ化した展示テーマを設け、内容の充実に取り組んだ。 ・総合展示第1、３～５テーマのクローズアップ展示への参加・協力については、平成29年度はとくにアイヌ文化に大きく関わる内容のテーマがなかったことから、とくに行わなかった。 ・展示シナリオ及び資料の事前検討については、おおむね期日に即した検討を実施した。 ②　「アイヌ文化Ｑ＆Ａ」コーナーの運用 ・更新準備までは作業を進めたが、定期的な更新はなお2月以降の課題となった。 ③　展示資料の定期的な入替え ・総合展示資料の定期的な入替えは、平成30年1月までを目安として 　Ａ（3～6か月毎）　衣服及び関連資料等 　Ｂ（1年毎）　筆録ノート、レコード等 　Ｃ（その他）　装身具・祭具等 に区分し、計画を立てA・B・C計7件の入替えを実施した。 ・iPadを利用した、衣服を紹介する展示は、写真の調達と機器の設置確認の途中まで進めた。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） クローズアップ展示の件数　6　件 「アイヌ文化Q&A」の入替え件数　0　件 総合展示の展示品の入替え総件数　7　件 内訳　衣服及び関連資料　3　件 　　装身具等　0　件 　　ノート等　4　件	①　クローズアップ展示の運用については、前年度の水準を維持しつつ、新たにシリーズ化したテーマを設けたことで内容の充実を図ることができた。 ②、③　総合展示の資料入替えは、予定どおり実施した。しかし「アイヌ文化Q&A」及び衣服写真のiPad展示は、準備作業の段階で止まっており、年度内の課題となっている。	B	以下の３点について、所管グループとの連携の下、実施する。 ①　クローズアップ展示の運用 ・第２テーマのクローズアップ展示３、４について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画を策定し、計画に基づく入替を実施する。 ・他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。 ・展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。 ②　「アイヌ文化Ｑ＆Ａ」コーナーの運用 ・更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。 ③　展示資料の定期的な入替え ・コーナー及び資料の種別に応じた入れ替え計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入替を実施する。 ・ｉＰａｄを利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替と連動した画像の追加・更新を実施する。	①　クローズアップ展示３、４の計画策定 　計画には多様な分野・テーマを盛り込むよう留意 ②　アイヌ文化Q&Aの定期的な追加・更新実施 ③　総合展示資料の入れ替え基準を定め、入れ替え計画策定 【判断数値設定】　有 ①　クローズアップ展示 　クローズアップ展示３、４とも、　各３回 ②　アイヌ文化Q&A 　更新年間４回（質問８件） ③　総合展示資料入れ替え 衣服及び関連資料　４回 装身具・祭具等　１回 ノート等　　１回

研究センター事業推進方針番号	1-2～3	研究センター目標値番号	2	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	2-2, 3-2

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31　補訂版】
1　展示事業
2）特別展・企画展　　3）道内市町村での資料展（アイヌ文化巡回展：仮称）の開催

北海道博物館中期目標・計画項目
2　展示　　（2）企画展示の開催
3　調査研究　　（2）アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31　補訂版】（縮約）
・アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な機関として、学術的な信頼性の高い研究成果に基づく、わかりやすく・親しみやすい展示を行うとともに、不断にその内容の充実を図り、アイヌ文化の理解促進に努める。
2）特別展・企画展
・企画テーマ展を開催し、大人から子どもまでさまざまな人々に向けた展示の機会を設ける。
3）道内市町村での資料展（アイヌ文化巡回展：仮称）の開催
・道内巡回展を開催し、最新の研究成果や当館が所蔵するさまざまな資料を紹介する。

北海道博物館中期目標・計画
2　展示　　（2）企画展示の開催
ア　他の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。
イ　道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。
ウ　北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。
3　調査研究　　（2）アイヌ文化に関わる調査研究の重点化
エ　調査研究などの成果をひろく伝えるため、研究紀要の発行や講演会・講座などの開催とともに、総合展示の充実や企画展示の実施などを進め、アイヌ文化に関する理解促進の取組を一層強化する。

点検項目集計	計	○	×
	3	3	0

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・第10回企画テーマ展「カムイとアイヌの ものがたり」を実施する。実施に当たっては、「地域差・個人差が多様なアイヌの世界観について、その多様性に配慮しつつ、どのようにして基本的な情報を伝えるか」「「世界観」「物語」という“モノ”“形”を伴わないものをどのようにわかりやすく展示するか」の2点に留意し、関係機関との協力・連携によって内容の充実を図る。 ・第9回企画テーマ展（弥永資料展）のうち、主にアイヌ民族資料の整理と紹介を分担する。展示を通して、資料の特徴や意義を適切に伝達できる解説を実施する。 ・平成30年度以降の企画テーマ展、蔵出し展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。 ・既にテーマを定めている「地名から見える北海道（仮）」については、北海道命名150年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。 ・平成29年度の巡回展を開催し、30年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成28年度同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。	・第10回企画テーマ展の開催 ・第3回巡回展の開催 ・平成30年度以降の企画テーマ展、蔵出し展、巡回展等の開催計画の策定。特別展開催に関する検討 【判断数値設定】　有 ・第10回企画テーマ展の来場者数 （第10回企画テーマ展「カムイとアイヌの ものがたり」 利用者数：5,000人 満足度：90% 【参考　平成27年度同時期の企画テーマ展の実績】 利用者数：5,324人 満足度：91.6%） ・企画テーマ展、巡回展ごとの満足度	2）企画展等 ・第10回企画テーマ展「カムイとアイヌの ものがたり」の開催準備を進めた。また、関連事業として講演会などを平成30年3月までに実施予定。 実施にあたっては、アイヌ民族の世界観や信仰について、かつその個人差や地域差等を伝えるため、次の3つの柱にそった展示構成で準備を進めた。 ①口承文芸のアニメーション作品を軸にした展示 ②解説パネル（「物語のあらすじ」「要点解説」「詳細解説」の3層構造にし、それぞれで対象年齢や説明の具体性等を階層化） ③物語に関連する実物資料の展示（解説に必要な範囲で、語り手の地域に配慮して選定） また、アニメ作品の使用や展示解説、講座等の開催においては、アイヌ民族博物館、アイヌ文化振興・研究推進機構等の協力を得て進めている。 ・第9回企画テーマ展「弥永コレクション」のうち、主にアイヌ民族資料の整理と紹介を担当し、資料の特徴や意義を適切に伝達できる解説を実施した。 ・平成30年度以降の企画テーマ展等の計画について、引き続き検討・策定を図った。 ・平成31年度に開催予定の「地名から見える北海道（仮）」について、北海道命名150年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進めた。 3）巡回展 ・第3回アイヌ文化巡回展を羅臼町で「地名」をテーマに開催した。アンケートの回答率が高く、また満足度も96.6%と評価を得た。 ・アイヌ文化関連の事業が少ない地域であることを踏まえ、地元の小学校で関連講座を開催し、衣服等の調査も併せて実施した。 ・平成３０年度の開催計画の策定が現在の課題である。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） 第10回企画テーマ展（2/2～4/8） 「カムイとアイヌの ものがたり」 利用者数　－　人 満足度　－　% 第3回アイヌ文化巡回展 羅臼（7/22～10/18） 利用者数　952　人 満足度　96.6　%	・予定どおり第10回企画テーマ展として「カムイとアイヌの ものがたり」の開催準備を進めた。 展示そのものの評価は開催後の来場者の感想等をみる必要があるが、計画で掲げた留意点を踏まえた展示構成と、関係機関等との連携・協力についてはおおむね達成できたと評価する。 ・企画テーマ展「弥永コレクション」におけるアイヌ民族資料について、適切な解説を実施した。 ・平成30年度以降の企画テーマ展等の計画策定は、特段の進捗はみられなかった。 ・平成31年度に開催予定の「地名から見える北海道（仮）」について、全体としては具体的・詳細な検討には至っていないが、個々の調査等は着実に進めている。 ・アイヌ文化巡回展を羅臼町で開催し、高い評価を得た。 ・次年度以降の継続的な開催計画策定が課題である。	A	・平成３１年度以降の企画テーマ展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。 ・既にテーマを定めている「地名から見える北海道（仮）」については、北海道命名150年の翌年であり、象徴空間開設の前年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。 ・平成30年度の巡回展を開催し、平成３１年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成29年度までと同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。	・第４回巡回展の開催。 ・平成３１年度以降の企画テーマ展、巡回展等の開催計画の策定。特別展開催に関する検討。 【判断数値設定】　有 ・第10回企画テーマ展の来場者数 ・企画テーマ展、巡回展ごとの満足度

研究センター事業推進方針番号	2	研究センター目標値番号	3	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	3-2

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31　補訂版】
2　調査研究事業

北海道博物館中期目標・計画項目
3　調査研究
(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31　補訂版】（縮約）
アイヌの民族に関する専門的な機関としての社会的な要請に応じるために、それらの取り組みの土台となる研究プロジェクトを推進していく。

北海道博物館中期目標・計画
ア　北海道の総合博物館としてアイヌ文化の継承と理解促進に資するため、アイヌ民族の言語・口承文芸、芸能、民具・生活技術などの有形・無形の文化と、それらの理解に欠かせない歴史について、重点的に調査研究を進める。

点検項目集計	計	○	×
	6	5	1

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の２つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。 ・平成28年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。 ・ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。 ・総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。	・調査研究や研究内容を検討する時間の確保に努め、研究内容を充実させる 【判断数値設定】有 ・各プロジェクトごとの研究課題の件数と成果発表等の件数 ・科研等の補助金件数	・「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の２つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進めた。 ・後者のプロジェクトについて、計３件の成果発表をすることができた。 ・平成28年度で終了した個別課題については、その成果の展示等の事業への反映を検討するとともに、成果を踏まえたうえでの新たな課題を設定した。 ・海外共同研究については、ロイヤル・アルバータ博物館（カナダ）からの招へい者のうち先住民族の資料の扱い方に関する調査に、研究センターとして対応した。 ・アイヌ文化研究において内在する課題、海外共同研究との整合性や棲み分けなど、引き続き問題が残っているが、アルバータ博物館との間では公的な博物館と先住民族との関わりのあり方について、サハリン州郷土博物館との間ではアイヌ民族文化の地域差等に関する実物資料や伝承の比較等の課題の検討も始まっている。 ・外部資金については、日本学術振興会科学研究費補助金についてアイヌ民族文化研究センター職員の獲得件数は1件に減少したが、新たにサントリー文化財団の助成金について配当を受け、調査研究を開始している。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト　課題件数　4　件 成果発表等　0　件 アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト　課題件数　4　件 成果発表等　3　件 海外博物館等との共同研究プロジェクト　課題件数　2　件 成果発表等　0　件 科研等の補助金件数　2　件	・アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクトに関する成果を報告することができた。 ・平成28年度で終了した個別課題について、具体的な展示等を計画するまでには至らないものの、依頼された講演等の内容に反映させるなどしてきた。また、新たな課題を設定し開始することができた。 ・海外共同研究を含めた研究課題の充実と継続など今後の課題は少なくないが、ひとまず平成27年度統合時の課題は達成し、課題等も含め次の段階へとステップを進めたと自己評価する。 ・科学研究費補助金の獲得件数は減少したが、一方でサントリー文化財団の助成金を新たに獲得し調査研究を開始することができた。	A	・「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の２つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。 ・平成２９年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。 ・ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。 ・総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。	・調査研究や研究内容を検討する時間の確保に努め、研究内容を充実させる。 【判断数値設定】有 ・各プロジェクトごとの研究課題の件数と成果発表等の件数 ・科研等の補助金件数

研究センター事業推進方針番号	3	研究センター目標値番号	4	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	3-2

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31　補訂版】
3　資料・情報の収集・整備事業

北海道博物館中期目標・計画項目
3　調査研究
(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31　補訂版】（縮約）
ア　道内外の関係機関、研究者との連携を図り、アイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、情報の収集・整理を行う。
イ　道内の中核博物館における専門機関として、先ず道立機関が所蔵する音声・映像資料及び文書資料、民具資料についての情報の一元的な集約を進める。
ウ　さらに道内市町村に所在する各種の資料に重点を置き、総合的、体系的に調査・収集を進める。

北海道博物館中期目標・計画
イ　関係機関や研究者、伝承活動関係者などとの連携により、道内各地のアイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、整理・保存作業を行う。

点検項目集計	計	○	×
	4	3	1

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・未整理資料の整理・データ登録・配架について平成29～31年度で完了させる計画を再度策定し、実施する。 ・新規に受け入れるキーステン・レフシン資料等の整理を進める。 　その際、整理・登録の流れを全館的に確定する取り組みに参画するとともに、研究紀要等を使った継続的・組織的な紹介の進め方を検討し、実施する。 ・研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。	・資料の整理・登録・配架規格の策定 ・計画に基づく資料登録の実施 ・新収蔵資料紹介の継続的実施 ・資料の所在調査等の継続実施 【判断数値設定】　有 ・新たに登録した資料の件数（＝未処理のままの資料の残数の段階的解消） ・収集した資料の件数 ・資料の所在調査等の実施件数	・資料収集については、研究計画→資料調査→成果報告　という流れで進めた作業もあるが、組織的な調査及び情報整備の体制をつくるには至らなかった。 ・資料は公共財であるとの認識のもと情報提供の一環として、新規に受け入れた資料のうち特徴的なもの等についての紹介を行うため、『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』において「新着資料紹介」という枠組みを設け、以後継続することとした。 ・前年度、新規に受け入れたキーステン・レフシン資料については整理作業を開始したものの一時中断しており、平成29年度後半から再開している。 ・新たに収集・登録した資料は87件である。 ・「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の未整理・未登録資料の整理・登録については、ごく一部に着手したにとどまった。 ・民具資料のうち過年度から未整理の資料については、関係者への聞き取り等により資料情報を補う作業を引き続き行っているが、整理作業についてはとくに進捗をみていない。 ・研究プロジェクト等における資料所在調査等の位置づけや実施を意識しつつ、個々の研究課題を進めている。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） 新たに登録した資料の件数（未処理資料の解消）　0　件 収集した資料の件数　87　件 資料の所在調査等の実施件数　8　件	・資料の収集・整理及び速やかな情報提供等について、筋道をつけることができたが、実際の作業については着手できていない部分も多く、未整理の資料を残している。 ・前年度、新規に受け入れたキーステン・レフシン資料の整理作業は、当初予定から遅延している。 ・未整理資料の整理・登録についてはとくに進捗をはかることができなかった。 ・研究プロジェクト等における資料所在調査等の位置づけは、個々の課題において意識し一部実施してはいるものの、プロジェクト全体の中での検討や計画的な遂行などなお課題を残している。	B	・未整理資料の整理・データ登録・配架について平成31年度までに完了させる計画を策定し、実施する。 ・平成28年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理を進める。 ・研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。	・資料の整理・登録・配架の策定 ・計画に基づく資料登録の実施 ・新収蔵資料紹介の継続的実施 ・資料の所在調査等の継続実施 【判断数値設定】　有 ・新たに登録した資料の件数（＝未処理のままの資料の残数の段階的解消） ・収集した資料の件数 ・資料の所在調査等の実施件数

研究センター事業推進方針番号	4-1

研究センター目標値番号	5

担当	アイヌ民族文化研究センター

北海道博物館中期目標・計画番号	3-2

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31　補訂版】
4　資料・情報等の公開・提供事業
1）資料の公開

北海道博物館中期目標・計画項目
3　調査研究
（2）アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31　補訂版】（縮約）
ア　寄贈を受けた「山田秀三文庫」、「久保寺逸彦文庫」や職員による採録資料（録音、録画等）について保存処理や内容整理を進める。
イ　アイヌ文化の学習・伝承等のため利用できるよう、目録の作成や資料の公開を進める。
ウ　インターネット上に開設した「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の掲載資料や提供内容を増やすなど、より多くの利用者に広く提供できる方法の拡充につとめ、アイヌ文化研究における情報センターとしての機能の充実を図る。

北海道博物館中期目標・計画
ウ　調査研究などを通じて収集した未公開の資料や研究情報については、その公開を進め、アイヌ文化の継承、学習、研究などに広く活用できるよう整備を進める。

点検項目集計	計	○	×
	4	2	2

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・資料公開手続きの再開（実施） ・公開計画の再策定と年間公開点数の増加 ※平成28年度に目標に含めていた目録の刊行件数については、より実質的な資料の公開の実施が重要であると考えられること、公開資料等の情報提供については目録刊行よりもインターネット上での逐次的な搭載などの方策がありえることから、課題としては継続させるものの、年次目標からはいったん除外する。	・資料群ごとの公開計画の策定 ・計画に基づく新規公開の実施 【判断数値設定】　有 ・公開した資料件数 ・資料閲覧件数（文書、音声・映像、民具ごと）	・平成28年度末に定めた資料の採録から公開までの手続きに関する要領に基づき、職員採録資料3点について公開準備を進めた。 ・公開までの手続きにおいて必要となる、関係者情報の整理について、アイヌ民族文化研究センター内で、流れや方針が確定・共有された。 ・「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」については、関係者調査や関係者との協議等を進めたが、公開は今後の課題である。 ・今後、公開計画の再確認を行い年間の公開点数を再検討を予定していたが、実施に至っていない。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） 公開した資料件数　0　件 資料閲覧件数　全体　13　件 （内　文書　4　件 音声・映像　7　件 民具　2　件	・採録～公開にかかる要領を策定したことは評価できる。一方で、中長期的な公開計画の検討・策定には十分に至っておらず、課題を残している。	B	・資料公開手続きの再開（実施） ・公開計画の再策定と年間公開点数の増加	・資料群ごとの公開計画の策定 ・計画に基づく新規公開の実施 【判断数値設定】　有 ・公開した資料件数 ・資料閲覧件数（文書、音声・映像、民具ごと）

研究センター事業推進方針番号	4-2	研究センター目標値番号	6	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	12-1

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31　補訂版】
4　資料・情報等の公開・提供事業
2）情報発信
（1）学術情報の集約　（2）発信基盤の整備

北海道博物館中期目標・計画項目
１２　情報発信
（1）アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31　補訂版】（縮約）
（1）学術情報の集約
・これまでの調査・研究事業及び資料・情報の収集・整理事業を通して蓄積されてきた学術情報の集約を図る。
　①　アイヌ文化に関する学術情報の収集とデータベース化　　②　道内の市町村と連携した情報の集約
（2）発信基盤の整備
・インターネット等を通した提供方法の拡充などより広く情報を提供できる発信基盤の整備に努める。
　①　アイヌ文化関係の学術情報の発信　　②　ホームページの充実　　③　発信媒体の強化

北海道博物館中期目標・計画
ア　アイヌ文化に関する資料及び学術情報を一元的に集約し、そのデータベース化を進める。
イ　これらの成果については、さまざまな媒体や機会を通した提供を進め、北海道博物館がアイヌ文化の継承、学習、研究にとっての情報センターとしての役割も果たすことができるよう、そのための機能の充実を図る。

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計		計	○	×
	（1）学術情報の集約	3	1	2
	（2）発信基盤の整備	3	1	2

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
（1）情報発信方策の再検討 ・現在及び今後の北海道博物館によるウエブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する（ウエブサイト上でのページ・コンテンツの設定等） ・上記と並行して「ほっかどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。 （2）学術情報の集積 ・収蔵資料のデータ整備を行う。 ・北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。	・ウエブサイト（ホームページ）の更新計画の策定 ・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の掲載資料・コンテンツの追加 【判断数値設定】有 ・ホームページにおけるアイヌ文化コンテンツの更新・追加件数：１０件	（1）（2） 　学習・研究のための情報発信については、当年度中に増刷したアイヌ文化紹介小冊子のPDFを当館ウエブサイト上で更新したが、アイヌ民族文化研究センターのページ上では新たな情報コンテンツの追加・更新は行えなかった。これ以外に新たな情報コンテンツを用意できなかったことも要因の一つであるが、平成27年11月から本格運用を開始した当館の情報システムでは、アイヌ民族文化研究センターのホームページの編集・更新についても仕様が変わったことが、進捗をはかるうえでの大きな課題となったままである。解決には、現在の情報システムに対応した整備方法の再検討を進める必要がある。 ・北海道博物館によるウエブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付け再検討（ウエブサイト上でのページ・コンテンツの設定等）、「ほっかどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画の策定、いずれについても今年度は特段の進捗を見なかった。 ・収蔵資料のデータ整備については、館の収蔵資料情報の管理・公開の基幹である、収蔵資料データベース（I.B.ミュージアム）への資料情報の充実を図ることを優先しつつ、次期システムの検討に着手していくこととしたが、進捗はしていない。 ・北海道によるこれまでのアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約については、関係機関との協議や情報整備なども特段の進捗を見なかった。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） アイヌ文化コンテンツの追加数　0　回	・学習・研究のための情報発信については、達成状況記載のとおり、情報システムそのものの更新を図る必要があるが、これらに関する取り組みが進められなかったことから評価は低くならざるを得ない。ただし、平成30年度以降の取り組みに向けた検討を進めている。 ・インターネットを通した発信・提供の方法と計画を再検討し、策定し直すこととしていたが、これも上述と同様、取り組みが進められなかったことから評価は低くならざるを得ない。ただし、平成30年度以降の取り組みに向けた検討を進めている。 以上、取り組みそのものは進められなかったが、平成30年度以降に向けた検討は着実に進めていることを勘案し、B評価が妥当と判断した。	B	（1）情報発信方策の再検討 ・現在及び今後の北海道博物館によるウエブサイト及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する（ウエブサイト上でのページ・コンテンツの設定等） ・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。 （2）学術情報の集積 ・収蔵資料のデータ整備を行う。 ・北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。	・ウエブサイト（ホームページ）の更新計画の策定 ・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の掲載資料。コンテンツの追加 【判断数値設定】有 ・ホームページにおけるアイヌ文化コンテンツの更新・追加件数

研究センター事業推進方針番号	4-2	研究センター目標値番号	7	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	12-3

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31　補訂版】
4　資料・情報等の公開・提供事業
2）情報発信
（3）学習・伝承活動への支援

北海道博物館中期目標・計画項目
１２　情報発信
(3)道民の「知りたい」気持ちへの支援

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31　補訂版】（縮約）
・それらに基づいた学習・伝承活動への支援を行う。
　①　関係機関、団体等に対する支援の強化　　②　レファレンス（学習相談等）への対応

北海道博物館中期目標・計画
ウ　北海道の自然・歴史・文化に関わる道民の身近な相談窓口として、利用者からのアクセスツールを整備し、レファレンスや学習支援の機能を強化する。

点検項目集計	計	○	×
	3	2	0

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○	○	○	○	○

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。平成２９年度は次の２点を実施する。 ①　ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。 ②　レファレンス対応の記録票の定型化を踏まえ、これらの情報の共有化による対応力の向上を図る。	・ホームページ等での情報発信の再開 【判断数値設定】　有 ・レファレンス件数 ・他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）	①　ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する予定であったが、前項「６」（資料・情報等の公開・提供事業　情報発信）に述べたとおり、ほとんど実施できていない。 　一方で、アイヌ文化に関する照会先としての認知度は、緩やかに高まってきている。 ②　レファレンス対応の記録票の定型化を踏まえ、レファレンス内容の情報を共有して対応力を向上することを目指したが、情報共有の機会を定例化できていない。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） レファレンス件数　79　件 他機関、団体への学習・伝承支援件数　3　件	アイヌ文化に関する外部からの様々な問い合わせに対応し、専門的知見をその都度提供しているが、アイヌ民族文化研究センター内での情報共有や検討の機会は定例化していくよう努力すべきである。	B	博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。 ①　ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。 ②　レファレンス対応の記録票に基づき、これらの情報を定期的に共有し、対応力の向上を図る。	・ホームページ等での情報発信の再開 ・レファレンス記録票の集約・報告時期の定例化 【判断数値設定】　有 ・レファレンス件数 ・他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）

研究センター事業推進方針番号	5-1	研究センター目標値番号	8	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	5-1～3

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31　補訂版】
5　成果の普及事業
1）教育普及

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31　補訂版】（縮約）
ア　自然・歴史・文化の総合博物館であることのメリットを活かしながら、講演会・講座等の事業、展示の解説、「はっけん広場」（旧体験学習室）の機能の充実を図る。
イ　さまざまな年齢層に向けた、わかりやすく、楽しく、親しみやすい学習機会の提供や、学習素材の開発・作成等を通して、アイヌ文化の普及及び理解促進に努める。

点検項目集計	計	○	×
	2	1	1

北海道博物館中期目標・計画項目
5　教育普及事業
（1）魅力あるイベントの充実　（2）教材の充実　（3）はっけん広場の運営

北海道博物館中期目標・計画
（1）魅力あるイベントの充実
オ　イベントやプログラムの充実にあたっては、特にアイヌ文化や北海道の自然に関する事業を重点的に強化する。
（2）教材の充実
情報・通信技術を活用した機器（ICT機器）による多言語解説、ワークブックや解説書、さわれる資料や五感を刺激する資料・装置など、あらゆる利用者に対応した総合展示・企画展示の理解を促す教材の充実を図る。
（3）はっけん広場の運営
ア　「はっけん広場」の活動を充実させ、新たな発見を利用者に促すとともに、利用者同士、利用者とスタッフの交流の輪を育む。
イ　学校現場など、利用者の声も反映させながら、「はっけんキット」や「はっけんプログラム」の改良や開発、「はっけんイベント」の充実に努める。
ウ　博物館利用促進の一環として、学校など、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進する。

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ	H27	H28	H29	H30	H31
（1）魅力あるイベントの充実	◎	○	○	○	○
（2）教材の充実	◎	◎	◎	◎	◎
（3）はっけん広場の運営	◎	◎	◎	◎	◎

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。 ・グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。	・アイヌ文化に関する普及事業の効果的な実施体制 【判断数値設定】有 ・グループレクチャーの実施件数（全体数とアイヌ関連件数） （アイヌ文化関連のグループレクチャー：年間２４件） ・はっけんプログラムの実施件数（全体数とアイヌ関連件数） （はっけんプログラム（種類）：１件） ・上記以外に行った館内イベント件数 （その他のイベント：２件）	・平成２９年度は、職員が館で実施した講座・ワークショップ等は5件、巡回展関連で実施した講座等が１件。前年度と比べ館内実施件数は減少しているが、2～3月に企画テーマ展関連事業として講座等を6件（うち外部講師による講演会１件）実施する予定。 ・巡回展関連講座は、件数は前年度と比べて減少したが、開催館である羅臼町郷土資料館及び羅臼町教育委員会の要望にこたえ、地元の小学校においてアイヌ文化の体験講座を実施した。 ・グループレクチャーの件数は、全体としては前年度より減っているが、アイヌ文化関連のレクチャーの要望件数は増加している。 ・内容検討の機会については、今年度特に設けることがなかった。 ・はっけん広場で実施している、学校団体向けの「はっけんプログラム」は、今年度特に改善に向けた検討を実施できなかった。次年度の課題とした。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） グループレクチャーの実施件数 全体 132 件 グループレクチャーの実施件数 アイヌ関連 33 件 はっけんプログラムの実施件数 全体 200 件 はっけんプログラムの実施件数 アイヌ関連 67 件 上記以外に行った館内イベント件数 0 件	・講座等の普及事業や、グループレクチャー全体の実施件数が減少している中、アイヌ文化関連のレクチャー件数が増加していることは、北海道博物館においてアイヌ文化について学べるということへの認知度が高まったと評価できる。 ・ただし、内容検討の機会を設けることや、はっけんプログラムに関する検討に進捗がなかったことから、Bとした。	B	・引き続き、館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。 ・グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。	・アイヌ文化に関する普及事業の効果的な実施体制 【判断数値設定】有 ・グループレクチャーの実施件数（全体数とアイヌ関連件数） ・はっけんプログラムの実施件数（全体数とアイヌ関連件数） ・上記以外に行った館内イベント件数

研究センター事業推進方針番号	5-2	研究センター目標値番号	9	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	9-1, 12-1, 14-1

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31　補訂版】
5　成果の普及事業
2）研究成果の提供

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31　補訂版】（縮約）
ア　研究成果をとりまとめた研究紀要等の成果報告書を刊行していく。
　①　研究紀要　　②　成果報告書
イ　研究成果を踏まえた講演会の開催など、アイヌ文化に関する最新の研究成果や正確な情報をよりわかりやすいかたちで提供する取組を一層強化する。
　①　広報紙「ちゃれんがニュース」　②　ホームページ　③　ソーシャルネットワーク
ウ　さまざまな取組を通じて、北海道博物館の内部組織としてのアイヌ民族文化研究センターの取組を周知していく。
　①　アイヌ文化紹介小冊子　　②　リーフレットなど

北海道博物館中期目標・計画項目
9　広報　　（1）広報活動の強化
１２　情報発信　（1）アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信
１４　研究成果の発信と社会貢献　（1）学術刊行物などの刊行

北海道博物館中期目標・計画
9　広報　　（1）広報活動の強化
ア　道民の博物館への関心を広げ、利用を促進していくため、あらゆる広報媒体を活用するとともに、職員全員が積極的な広報活動を展開する。

１２　情報発信　（1）アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信
イ　これらの成果については、さまざまな媒体や機会を通した提供を進め、北海道博物館がアイヌ文化の継承、学習、研究にとっての情報センターとしての役割も果たすことができるよう、そのための機能の充実を図る。

１４　研究成果の発信と社会貢献　（1）学術刊行物などの刊行
ア　研究成果を広く伝えるため、研究紀要や研究報告書などを刊行する。
イ　北海道の自然・歴史・文化の学習や理解促進のために、研究成果をわかりやすくまとめた冊子などを刊行する。
ウ　企画展示の開催に合わせて、来館者の理解を深め、学術的意義を広く知らせるために展示図録や解説用冊子を刊行する。

点検項目集計	計	○	×
	3	2	1

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ

	H27	H28	H29	H30	H31
9　広報（1）	◎	○	○	○	○
１２　情報発信（1）	◎	◎	◎	◎	◎
１４　研究成果の発信と社会貢献（1）					

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第３号を刊行する。 ・平成29年度に開催する企画テーマ展に調査研究課題の成果を反映させていく。 ・『アイヌ文化紹介小冊子』収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。 ・「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。	・研究紀要、企画テーマ展等を通して研究成果を積極的に発信し、その内容を充実させる 【判断数値設定】　有 ・「ちゃれんがニュース」の記事数 ・他機関の機関紙等での記事の掲載数 ・道内市町村等との連携・協力件数（サイエンスパーク等） ・新聞・報道対応件数 ・講演依頼件数 ・各種委員への就任件数	・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号は、平成29年1月末までに掲載内容（全８本の論考等）を確定し、3月発行の予定。アイヌ民族文化研究センター6名のうち4名が執筆し、事業・研究の成果を発表する。 ・第10回企画テーマ展「カムイとアイヌの ものがたり」において、アイヌ口承文芸に関する研究成果やこれまでに培った専門的知見を反映させた。 ・『アイヌ文化紹介小冊子』については今年度は「４　住まい」を増刷することができたが、一方で、小冊子収録の学習情報の集約・改訂については前年度からの課題としていたにもかかわらず、進捗していない。 ・館の広報誌「森のちゃれんがニュース」に「アイヌ民族文化研究センターだより」のページを設け、巡回展や企画テーマ展など、アイヌ文化に関する事業や出版物、職員の調査研究に関する報告等を発信した。 ・研究紀要への投稿内容やその他の研究成果の発表について、アイヌ民族文化研究センターとして検討する機会は、年度当初の研究計画の検討（1回）に加え、『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』へのエントリー時期に検討（１回）を行った。 目標（値）実績（平成29年4月～平成30年1月） 「ちゃれんがニュース」の記事数　4　件 他機関の機関紙等での記事掲載数　3　件 道内市町村等との連携・協力件数　0　件 新聞・報道対応件数　1　件 講演依頼件数　9　件 各種委員への就任件数　6　件	・研究紀要の発行や広報誌の活用等については所期の目標を達成するとともに、より一層の内容充実をはかった。 ・小冊子の学習情報のとりまとめや、研究成果発表の内容充実に向けた取り組みに課題を残した。 ・依頼に応じた講演や執筆、外部との協力等については前年度よりは件数が減っているが、企画テーマ展の開催、研究紀要の発行などを通して、着実に研究成果を発信してきたことは評価できる。	A	・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第４号を刊行する。 ・調査研究課題の成果を反映させる展示会等の計画を検討していく。 ・必要に応じて『アイヌ文化紹介小冊子』各巻の増刷を図るとともに、小冊子収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。 ・「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。	・研究紀要、企画テーマ展等を通して研究成果を積極的に発信し、その内容を充実させる。 【判断数値設定】　有 ・「ちゃれんがニュース」の記事数 ・他機関の機関紙等での記事の掲載数 ・道内市町村等との連携・協力件数（サイエンスパーク等） ・新聞・報道対応件数 ・講演依頼件数 ・各種委員への就任件数

研究センター事業推進方針番号		研究センター目標値番号	10	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	

外部評価項目
ガバナンス態勢の育成
2　研究センター内の意思決定機関の育成

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31

備考
　平成27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、研究センター事業推進方針及び中期目標・計画とは別に設定した項目である。

点検項目集計	計	○	×
	6	5	1

平成29年度		項目別評価（平成29年度の実施状況）			平成30年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
・研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。 ①　調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。 ②　研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。 ③　研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。	研究センター会議（副館長・センター長・非常勤研究職員の会議／職員全体の会議等）の定例化 【判断数値設定】 無	①については、研究紀要の編集方針等の調査研究上の主要な案件については、常勤職員の会議と並行して、副館長・センター長・研究主幹及び非常勤研究職員による打合せを開催し、事業方針の検討ならびに事業の進捗状況の確認等を行った。 ②については、週1回の研究センターの打ち合わせを定例化し情報の共有に努めた。 ③については、学芸部・総務部業務の緊急度・優先度を勘案しつつ研究センターでの会議や研究業務を進めるよう努めたが、研究業務に配分できる時間はなお確保が十分ではない。	①常勤職員による会議、副館長・センター長・研究主幹及び非常勤研究職員による打合せを行うことによって、事業方針や進捗状況を検討・確認し情報の共有化をはかることができた。 ②については、週1回の打ち合わせをほぼ定例化することができた。 ③についてはなお学芸部業務と研究業務（本項との関わりでは研究計画等に関する組織的な協議体制）との両立等の課題が残っている。	B	・研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。 ①　調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長、研究主幹及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。 ②　研究センター職員による会議を定例化し、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。 ③　研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。	研究センター会議（副館長・センター長・非常勤職員の会議／職員全体の会議等）の定例化 【判断数値設定】 無